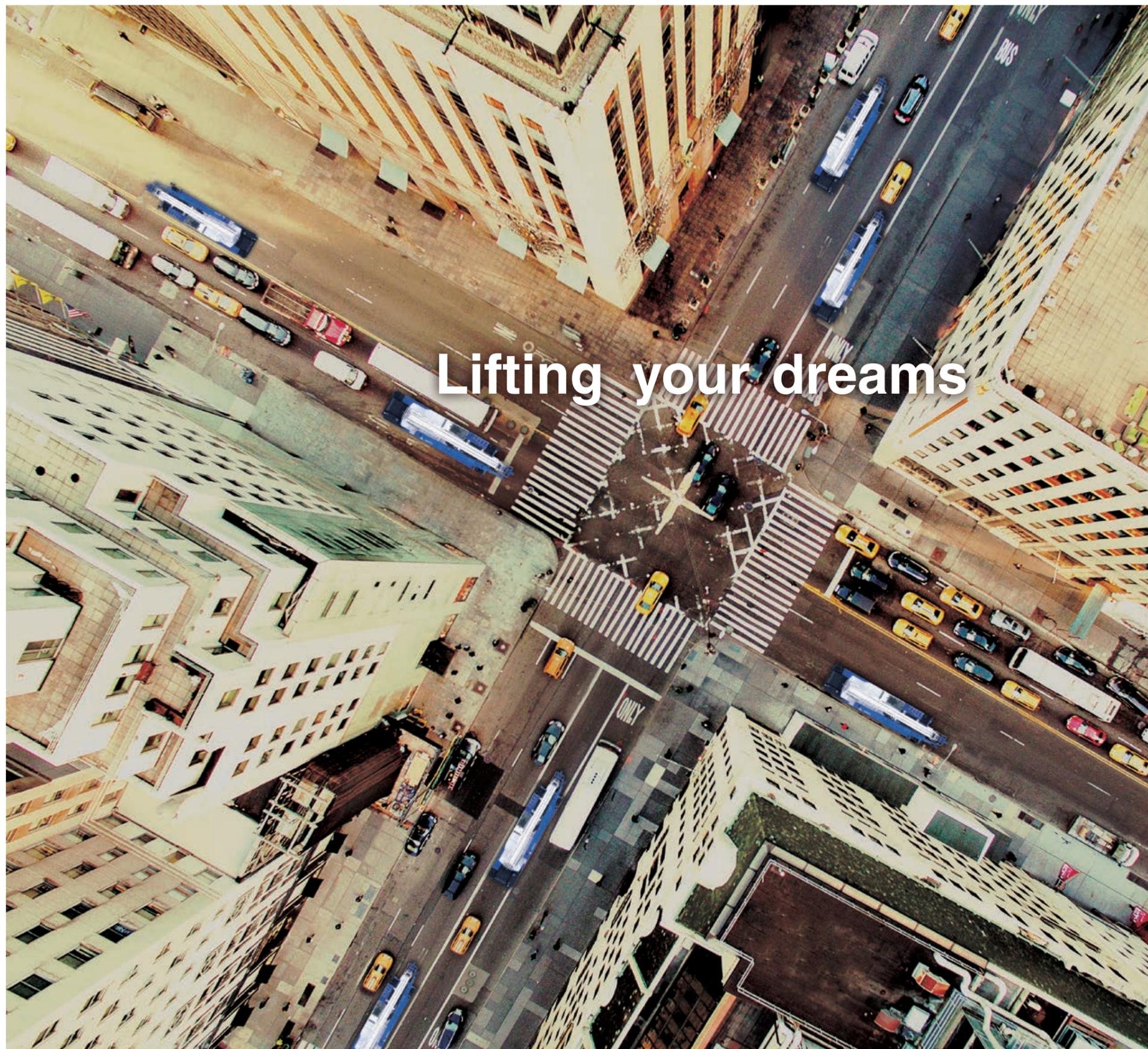




統合報告書 2018



Lifting your dreams

株式会社 タダノ

〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地
TEL 087-839-5555 (代表)
FAX 087-839-5743
<http://www.tadano.co.jp/>

高速道路、高層ビル、といった巨大建築物から
夢のマイホームづくりのお手伝いまで。
時には環境にやさしい風力発電のプロペラを。
また作業環境の厳しい地でも、お客様の信頼に応え、
私たちの技術・製品が、たくさんのものを吊り上げてきました。

Lifting your dreams

私たちは「創造・奉仕・協力」の経営理念のもと、
これからも、皆様のさまざまな「夢」の実現をお手伝いします。



今日も世界各地の現場で活躍する
タダノの製品。次ページではその
DNAである「創造・奉仕・協力」を
ご紹介します。

Contents

- 1-4 Introduction
目次 / 経営理念(事業目的)
- 5-6 Value Chain
創る・造る・届ける・サービスする
- 7-11 Top Message
- 12-14 LEとは / 価値創造プロセス
- 15-22 事業紹介
建設用クレーン
車両搭載型クレーン
高所作業車
その他
- 23-28 ステークホルダー
エンゲージメント
お客様への約束
社員との約束
取引先との約束
株主・投資家への約束
社会への約束
- 29-30 コーポレート・ガバナンス&
コンプライアンス
- 31-32 業績・財務ハイライト
(連結ベース)
- 33-34 連結財務諸表
- 35 トピックス
- 36 会社概要・株式の状況
- 37 役員紹介
- 38 沿革
- 39-42 事業所・グループ会社・
海外代理店一覧

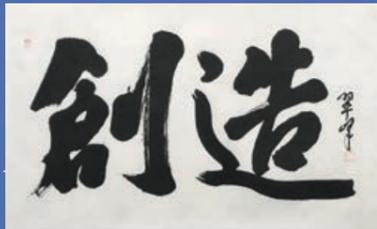


当社ウェブサイト(日・英)でも決算やESGに関する情報を
開示しています。ぜひご覧ください。

[日] <http://www.tadano.co.jp/>
[英] <http://www.tadano.com/>

※本報告書における掲載データについて
決算情報・株主情報については2017年度決算報告(2018年3月末
時点)のデータを、また海外のグループ会社・代理店一覧については
2018年7月末時点のデータをそれぞれ掲載しています。

世の中のお役に立つ製品を — 経営理念「創造・奉仕・協力」の実現こそが タダノの事業目的です。

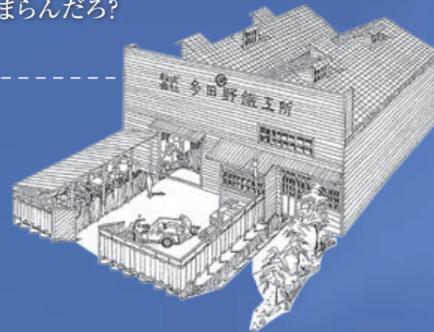


鉄工所をやろう！我々の技術を活かした鉄工所を。

人様の役に立つ仕事をしていれば必ず成功する。いいか、まず力を合わせて仲良くやるのが基本だ。

それが次に繋がる。それとあんまり人がやっていないような新しい仕事を選ぼうな。

みんながやっとなことの後追いをしてもつまらんだろ？



創業者・多田野益雄の言葉です。

この言葉の根底にあったのは「企業は社会や人との調和の中で生かされている存在」という考え方です。

私たちは調和の中で生かされているからこそ、人のお役に立ち(奉仕)、皆で力を合わせ(協力)、

世の中に新しい価値を提供すること(創造)を目指そう、と考えてきました。

経営理念「創造・奉仕・協力」はここから生まれました。

「創造・奉仕・協力」は経営理念であると同時に、私たちが事業をする目的そのものでもあります。

たった4人と23坪の小さな工場から始まった鉄工所が、日本で初めての油圧式トラッククレーン「OC-2」を開発。

その後も大胆な挑戦と全社の一致団結で、さまざまな製品を送り出しました。

今日も世界のどこかで私たちの製品が、誰かのお役に立っています。

「世の中のお役に立つものを創りたい」「社会の発展に貢献できる企業になりたい」

この思いがタダノの歴史を作ってきました。「創造・奉仕・協力」は私たちのDNAです。

LE世界No.1 への挑戦

LEとはLifting Equipment、日本語では(移動機能付)抗重力・空間作業機械のことです。都市開発や資源・エネルギー開発など社会の発展にLEは欠かせません。LEにしかできない仕事があり、社会貢献があります。私たちはLEという事業領域で、世界中のお客様から「かけがえのない存在」と言ってもらえる、世界No.1の企業を目指しています。

コアバリュー (安全・品質・効率) の追求

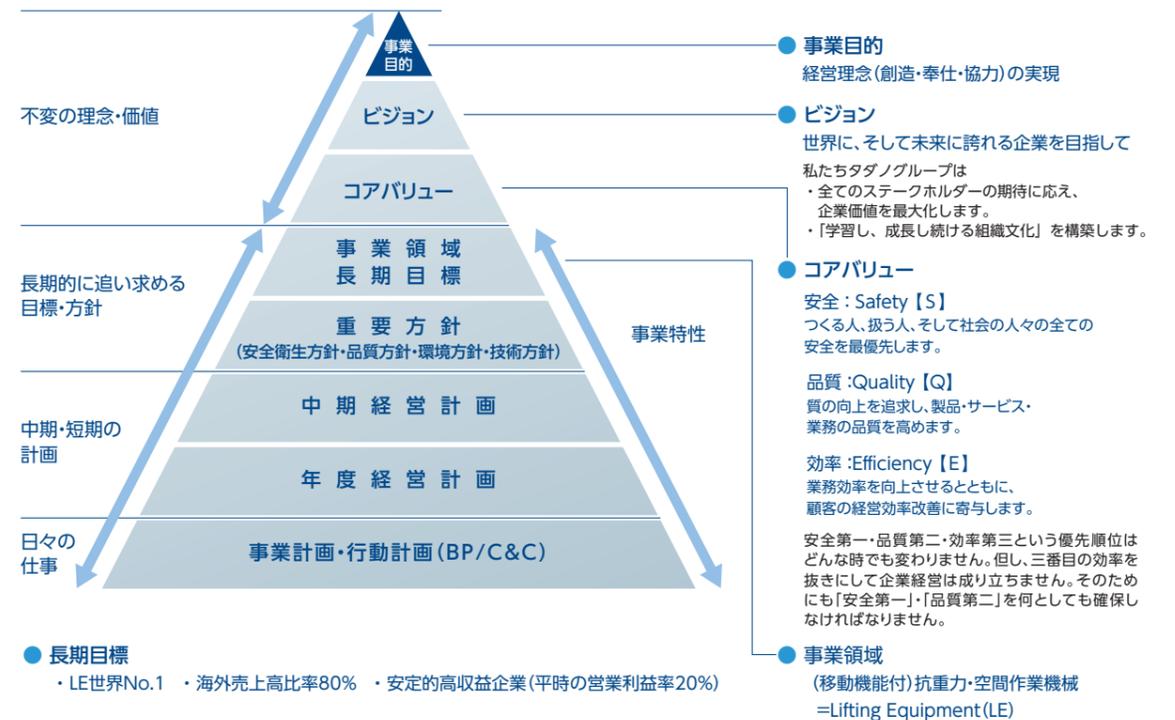
私たちにとって絶対譲れない価値観、それは「安全・品質・効率」のコアバリューです。お客様と社会の安全が最優先です。その上で製品・サービス・業務の品質を高める。業務効率を高め、お客様の経営効率改善に寄与する。コアバリューは価値観であるとともに、お客様に提供したいと考えているものでもあります。

世界に、そして未来に誇れる企業を目指して

「Lifting your dreams」というブランドメッセージに込められたdreamslは、人や社会、私たち自身の夢であるとともに、夢に向かう「志」でもあります。当社は、「LEを通してよりよい社会をつくる。お客様のビジネスに貢献する」という志を胸に「世界に、そして未来に誇れる企業」を目指し、すべてのステークホルダーの期待に応え、「企業価値を最大化する」取り組みを進めています。



事業の全体像(事業ピラミッド)



Value Chain

バリューチェーン

当社ではバリューチェーンを「創る・造る・届ける・サービスする」という言葉で表現し、総合的品质経営(TQM)に取り組んでいます。タダノの製品が今後もお客様に選ばれ続けるよう、従来からの強みである品質・(部品を含めた)サービス力に磨きをかけ、商品力と中古車価値をさらに高めることで「四拍子そろったメーカー」を目指しています。



造る

(生産・購買・品質安全)

溶接業からスタートしたタダノには、長年受け継がれ、磨きをかけてきた「技術」があります。その技術を伝え、育てていくのは「人財」です。特に複雑で繊細な機械のクレーンは、部品と部品のすり合わせなど経験工学的な要素が多く、「人の技術や技能の向上」が品質の大きな鍵になります。当社では「専門技能の習得」と「多能工化」という二つの側面から人財育成を推進。専門技能の習得による品質向上と、多能工化による効率的な生産を実現しています。一方で、さらなる生産性を求め、新しい設備や生産技術の開発にも力を入れています。

また、日本をマザー工場に位置づけながら、ドイツ、アメリカ、タイとそれぞれの市場に近いところで、それぞれのニーズにあった製品を生産し、生産効率とコスト競争力に優れたグローバル生産体制を構築しつつあります。「安全・品質・効率」を追求するコアバリュー活動を各社に展開するなど「世界統一品質」を目指すための取り組みも強化しています。これらの取り組みがタダノグループの品質を支えています。



創る (設計・開発)

タダノの設計の根底にあるのは、徹底したお客様目線です。現場ではどのように製品が使われているのか? という機能がお客様に喜んでいただけるのか? タダノの開発者は現場に足を運び、自分の目と耳で作業現場を見て、お客様の生の声を聞いて考えます。

過酷な作業現場でも壊れにくい、閑静な住宅街でも静かに作業できる。本当の意味でお役に立つ製品を作り

たい。高品質で高性能な製品作りへの強いこだわりを支えるのが、開発に直結した生産現場との抜群の連携です。

またドイツ・アメリカ・タイのそれぞれ海外グループ会社とのものづくり協働から生まれるグローバルな開発体制は、今後も進化を続けます。お客様の期待を超える製品を作りたい。タダノの挑戦に終わりはありません。



サービスする

CS(カスタマー・サポート)

タダノのサービスは、私たちが提供した製品の修理などを行うアフターサービスと、安心して使うために点検・整備などを行うビフォーサービスに分かれます。製品が故障する時間=ダウンタイムはお客様のビジネスの損失に直結します。当社では「ここまでしてくれるのか!」とお客様に言っていただけのような「感動サービス」の提供に取り組んでいます。

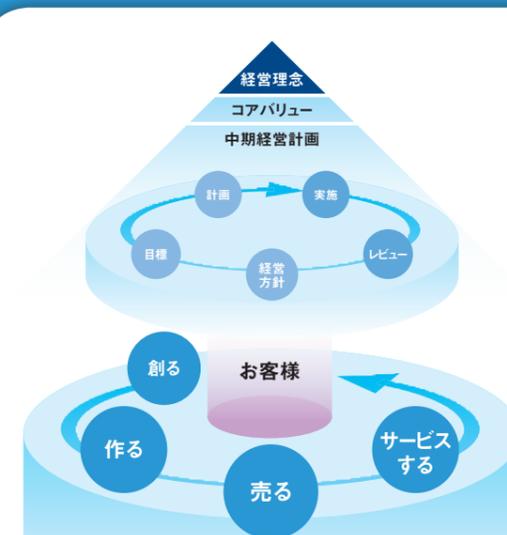
日本国内では10支店と23営業所に加え、全国352か所の認定サービス工場と939名の認定サービス員によるサービス体制を構築。また神戸市のグローバルパーツセンターをはじめ、7か所に部品センターを設置し、部品デリバリータイムの大幅な短縮を目指しています。

海外では直接サービスに加え、代理店が世界をカバー。体制を整えるとともに、サービスの質を高めるための取り組みも充実。現地で技術講習会を開いているほか、日本での専門教育も実施。最新のトレーニングセンターでの体系的な教育で、人財育成を進めています。

届ける (営業)

日本市場は、お客様の厳しい声がタダノの製品・品質を育ててくださった、いわば「マザーマーケット」です。全ての製品カテゴリにおいて厳しい競争を勝ち抜き、揺るぎない地位を築く取り組みを進めています。お客様の真の声に耳を傾けてつかんだご要望は、よりよい製品、よりよいサービスの創出のために、開発やサービスへフィードバックしています。

海外市場は、グループ会社による直接販売の他、商習慣や法制度など地域の実情を熟知した代理店を設定し、世界のクレーン需要をカバーするためのネットワークを構築しています。直販、代理店の双方でお客様とのコンタクトを密接にしてお客様の真のニーズをつかみ、満足をお届けできるよう努めています。



Top Message

代表取締役社長

多田野 宏一

1954年、香川県高松市生まれ。丸紅株式会社を経て、1988年株式会社タダノに入社。97年にドイツのグループ会社FAUN GmbH(当時)の社長に就任。また同年タダノ取締役にも就任。2003年に株式会社タダノ代表取締役社長に就任し、現在に至る。

「目の前の闘い」と「時代との闘い」 二つの闘いを同時に制していかなければ 私たちの未来はありません。



過去の成果と積み残した課題

創業100周年を迎えて

会社設立は1948年8月24日ですが、創業者・多田野益雄が溶接業を立ち上げるべく高松から北海道・旭川へ旅立った1919年8月29日を創業の日と定めています。当時は海外において溶接技術が普及・発展し、日本にも導入されはじめた頃でした。創業者は、溶接の火花に魅了され、世の中のお役に立つことを確信し、北海道の地で事業を興しました。「創造・奉仕・協力」の精神を事業目的として引き継ぎ、今後も世の中のお役に立つものを提供したいと考えています。

当社の売上・利益の推移を見ると、80～90年代は日本国内の売上が大半を占めていました。しかしバブルが崩壊し、2002年前後は売上が半減しました。その後、海外売上高比率を高めようと注力し、2007年度にはピークを記録しましたが、リーマン・ショックが起きてわずか2年で需要は半減。2010年度には過去最大の赤字を計上してしまいました。需要サイクルも重なったとはいえ「会社というのは簡単に赤字になってしまうものだな」と痛感しました。

事業ポートフォリオを見直し、LE以外の事業を営む選択肢もあったのかもしれませんが、当社は敢えてLEを事業領域と定め、LE世界No.1、海外売上高比率80%、平時の営業利益率20%以上を目指すという長期目標を掲げ、取り組み続けています。「世界No.1」という高い目標から見れば、現状は「課題」だらけです。しかし、全てを一度に変える事はできないので、プライオリティを決めて取り組んでいます。

景気の波に左右されやすい特徴

油圧ショベルなどの建設機械と比較すると、建設用クレーンは耐久性に優れ、寿命も長く、中古車としての価格が高いのが特徴です。当社のお客様に関しては「壊れたから買い替える」というよりは、景気が良くなったら新しい製品に買い替え、景気が冷え込むと買い替えを待つ傾向にあるという投資行動があります。つまり建設用クレーンは、他の建設機械と比べて景気の波に左右されやすいという特徴があります。

もっと強い会社に

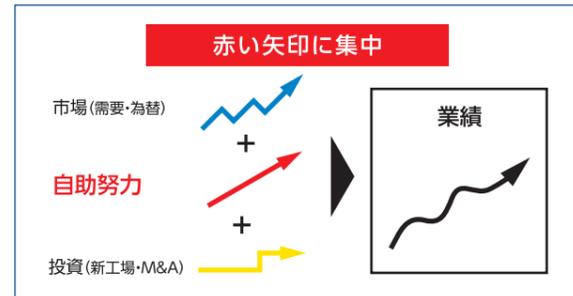
外部環境の影響を受けやすい企業の経営者として、「これは景気サイクルなのだから仕方ない。需要が回復すればまた黒字になる」と開き直る選択肢もあるのかもしれませんが、しかし私たちは、LEという分野で需要がアップダウンするという宿命を受け入れた上で、それをどう乗り越えるかが大きな課題だと考えています。「想定外」という言葉をよく聞きますが、想定外のせいにせず、それを織り込んでいける強い会社を作りたいです。

「強い会社」とは、景気の良いときも悪いときも「利益を出し続けられる」「人を育て続けられる」この2つを継続できる会社です。その中で当社は「安定的高収益企業」を目指す、具体的には「平時の営業利益率20%以上」を長期目標に掲げています。20%は高い目標ですが、外部環境が悪化してもそれを受け止めて利益を出し続けられるためには必要な数値だと考えています。

この考え方を具体的に表現したのが「4つの矢印」の話です。

4つの矢印とは

【青】は空の色であり、天候のごとく、複雑に変化する市場・需要動向や為替(外部環境)を指します。【赤】は情熱の色であり、自助努力=自分たちが頑張ればなんとかなる・コントロールできることを指します。【黄】は黄金の色であり、新工場建設やM&Aといった大きな投資を指します。3つの色を合わせると【黒】(利益の色)になります。



私たちは【青い矢印】に一喜一憂することなく、自分たちがコントロールできること【赤い矢印】に集中することが大切だと学びました。良いときも悪いときも弛まぬ努力を続け、毎期ごとに、結果を出しながら成長していく=【赤い矢印】が常に右上を向いている、そんな企業でありたいと考えています。よって、中期経営計画(17-19)

将来の展望とリスク認識

複雑・高速・極端に変化する時代

今、世の中は歴史的に見て大きな不安定期に入っており、世界は複雑・高速・極端に変化する時代を迎えていると感じます。政治の世界でも主要先進国が指導力を失い、指導者不在の「Gゼロ」時代と表現する人もいます。政治の不安定さが、景気・経済にもつながっており、予測しがたい大災害も発生しています。また、技術の進化も急速で、世の中のあり方を大きく変えるような技術革新がもたらす、いわゆるエクスポネンシャルな(指数関数的な)変化が少しずつ見え始めています。変化はひとたび顕在化すると、劇的・爆発的に拡がり、社会を変えていきます。LE業界にもそのような変化が迫っていると考え、対応していく必要があります。

技術革新による大きな変化

当社は1955年に日本初の油圧式クレーンOC-2型を開発し、60年以上にわたって、基本的には「より重いものをより高く・遠くへ」運べる技術開発を進めてきました。2017年には「技術研究部門」を独立し、さらなる技術革新を進めています。

たとえば私たちの製品が活躍する「建設業界」では、特に日本においては、少子高齢化による生産年齢人口の減少、建設就業者の減少が大きな問題になりつつあります。クレーンを自由自在に操作できる熟練オペレーターも減りつつある中で、技術革新によってクレーン操作をより簡略化・容易化・自動化することで現場の安全性を向上させる方向に行かなければなりません。将来的にはEVや自動運転可能な機械を世に送り出すことになるでしょう。

ただし、建設用クレーンは走行姿勢と作業姿勢の切り替えに

の基本方針は「強い会社」に【赤い矢印に集中】と決めました。

過去の当社は、需要が高まれば業績も良化し、喜んでいました。需要が低下すれば業績も悪化し、慌てていました。業績の主要因は需要動向でありながら、ただ結果に一喜一憂を繰り返していました。そこから脱却するために「4つの矢印」、特に赤い矢印が大切です。また現代は予測しづらい世の中であり、常に青い矢印に対して予測・準備・対応することも大切です。いつ変化が起きてもいいように、常に両様の構えをしておきたいと考えています。

忘れてはいけないこと

いつも社員に伝えている「当社が絶対に忘れてはいけない3つの重要な出来事」があります。1つ目は1998年から2002年にかけての不況期に3回の人員整理をしたこと。2つ目は2004年のリコール問題、3つ目は過去4件発生した労災死亡事故です。

以降、当社は「人は財産である」という考えのもとで「人材」を「人材」と表記し、人材育成へさらなる注力を行っています。また「私たちの製品は公道を走らせていただいている」との気づきを得て、CSR(企業の社会的責任)に力を入れるようになりました。そしてどんな時も絶対に譲れない価値観としてコアバリュー(安全・品質・効率)を定め、「安全」を全てに優先させるようになりました。

始まり、ブームの長さや角度などによってさまざまに状態が変化(トランスフォーム)する機械です。機械の状態が変わっても転倒しない、安全で安心できる製品を送り出す必要があります。また建設現場の中で当社製品だけが技術的に突出しても意味がなく、全体の作業効率をどう引き上げるかの方が重要です。建設現場におけるクレーンの役割自体も考え直す時に来ているのではないかと、という問題意識から、先般、京都大学との包括連携共同研究を発表しました。また他にも多くの大学・パートナーとAIなどの個別テーマでも研究に取り組んでいます。

「働きやすさ」と「伸び縮み力」

建設業界のみならず、どの会社にも少子高齢化の波が押し寄せています。これに対応するには、女性、シニア、外国人の活用を考えていく必要があります。当社は溶接業から発展したメーカーであるため、現状どうしても男性比率が高いです。ただ「溶接コンクール」などを見に行くと、女性でも優秀な成績を収めている方がいらっやいますね。これからは女性でも働ける、そして女性でも働きやすい職場づくりが大切だと考えています。現在建設中の香西新工場では空調も導入予定で、自動化の部分も増やしていきたいと考えています。また定年後も再雇用で活躍いただける方も増えていきますし、外国人実習生の受け入れも増やしています。

再三、申し上げているように私たちの業界は需要のアップダウンが激しいので、柔軟性=「伸び縮み力」もキーワードになります。バランスを考えながら固定費を圧縮して変動費を増やすことが必要だということになります。



重要テーマと打ち手

更なるグローバル化

タダノは日本で生まれ、日本に育ててもらった企業です。しかしながら日本市場は今後、少子高齢化でマーケットがゆるやかに縮小していく可能性が高いと考えています。

当社では日本・欧州・北米を「基幹市場」と捉えて拡充を図るとともに、それ以外のマーケットを「戦略市場」と定め、販売・サービスのネットワーク拡大に努めています。この10年で、海外に17社のグループ会社を設立し、8箇所の拠点を拡大しました。また2016年には神戸に「グローバルパーツセンター」をオープンするなど、国内外で部品やサービスの供給も充実させつつあります。志度工場には「トレーニングセンター」を新設し、国内サービス工場の認定サービス員のレベルアップや、海外代理店・サービス員への技術教育・安全教育にも力を入れています。

更なるグローバル化のキーワードが「One Tadano」です。グループ全体を共通の価値観を持った1つのチームにしたいと考えています。また「Wide & Deep」ということで、市場を広げるとともに、各地のお客様のニーズを捉え、深掘りすることも大切だと考えています。

日本市場の売上を維持・向上させながら、海外売上高比率を高める。これが当面の方針です。長期目標に向けた中間目標として、2022年度に売上高3,000億円(日本1,000億円、海外2,000億円)、営業利益500億円の数値目標を設定しています。そのためにはオーガニックな成長とM&Aなどの二つの方法、地域的な拡大と商品の拡大と言った二つの方向が考えられますが、これらをバランスよく取り込んでいきたいと考えています。

耐性アップ

需要の波に左右されない=耐性アップの6つの鍵として「ふところ深く」「身軽に」「柔軟性」「分散」「俊敏」「質の向上」のキーワードを設定しています。

具体的戦略の1つに「グローバル&フレキシブルものづくり」つまり「ものづくりの伸び縮み力」への取り組みとして新工場の設立があります。2014年度ならびに2015年度は過去最高の業績をあげ



ることができましたが、一方でメイン工場である志度工場は当時フル稼働。今後さらにシェアを上げていくには、生産能力が不足する可能性もあります。

LE世界No.1の達成には、新工場が必要であると考え、高松市に20ヘクタールの用地を取得し、建設を進めています。まさに「黄色い矢印」として200億円以上を投資し、2019年夏の稼働を目指しています。立地も海沿いであり、海外向けの大型クレーンを直接神戸港などに運ぶことが可能になるのも大きなポイントです。

新工場の概要

名称/香西工場	投資額/約200億円以上
所在地/香川県高松市香西北町	社員数/約100人
敷地面積/約20万㎡(約6万坪)	※第1期工事(2017年11月~2019年7月)
建物延床面積*/約4.7万㎡(約1.4万坪)	第2期工事は未定



競争力強化

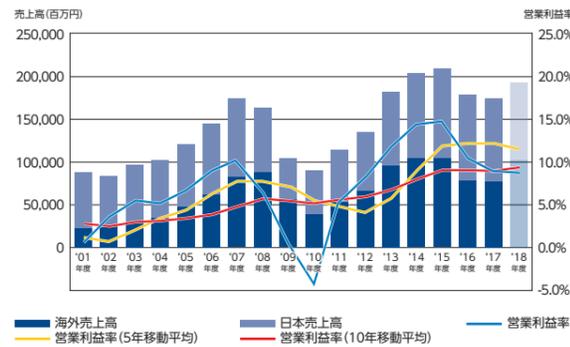
LE世界No.1を目指すために、競合メーカーが10年かかって追いつけないくらいの差をつけたい。そこでタダノグループのコアコンピタンス(=競争力の源泉)である「製品品質」と「(部品を含めた)サービス力」に、「商品力」と「中古車価値」を加えた「四拍子そろったメーカー」を目指しています。

具体的戦略の1つに「商品力強化」があります。日本向けラフテレーンクレーンの新シリーズ「CREVO G4」では合計10個以上のカメラを搭載し、周辺状況を常に認識できる「ワイドサイトビュー」や、クレーンの死角になりやすい左側方のバイク・自転車・人物を検知し、警報・ランプで注意を促す「ヒューマンアラートシステム」など新機能を搭載。お客様や社会の安全を強力にサポートしています。

単純に考えれば、製品の販売価格を上げて原価を下げれば、利益は高まります。しかし事はそう簡単ではありません。売価を上げて、競合との比較でシェアが落ちて、売上が落ちては意味がありません。いかに売価を維持・改善しながらシェアを高めていくか。お客様の目線で見れば、本当に世の中とお客様に「お役に立つ

機械」を当社が提供できるかどうか、安全で安心して、しかも効率良く使っていただける付加価値を創造できるかどうかだと思います。ライバルとの比較の中で「四拍子そろったメーカー」になりたいと考えています。

当社売上高・営業利益率の推移



「志」を持って、未来へ向かう

タダノにとっての成長とは

再度強調しますが、私たちは【青い矢印】に一喜一憂することなく、自分たちがコントロールできること【赤い矢印】に集中しよう、ということを中心経営計画の基本方針としています。「赤い矢印」に集中し続けることにより質的な成長の継続は可能であり、当社の成長の度合いは変動する「業績サイクルの波」を1つ前のものと見比べることで確認できると考えます。

具体的には、過去16年間の業績(売上と営業利益率)の推移をグラフで見てください。02年度から始まり、07年度にピークを迎えた波は、リーマン・ショックを契機に急落しました。しかし10年度を底に、そこから始まった次のサイクルを見ると、後者のグラフにおける売上と営業利益率は、前者を大きく上回っています。これこそがタダノグループの成長を示しています。もちろん常に増収増益であれば言うことなしですが、「変動する波を1つ前より必ず上回る」こそが成長だと考えています。「青い矢印の影響で減収減益となっても、質的な成長は可能だ」ということを、社員には言い聞かせています。

目の前の闘い・時代との闘い

これからは、「目の前の闘い」と「時代との闘い」、私たちはこの二つの闘いを同時に制していかなければいけません。まず「目の前の闘い」に打ち勝つ。毎期・毎月目の前の闘いを制し続けなければ明日はありません。しかしその連続だけでは、今日を生き延びることはできるかもしれないが、未来はないのではないかと、思うのです。

IoTやAIの活用が急速に広がり、自動車やトラックは、内燃機関の搭載を止めて電気自動車方向に進もうとしています。技術的変化が世の中を変える、とても大きな変革期を迎えつつあります。この「時代との闘い」を制していかなければ私たちの未来はありません。

大切にしたい「志」

私たちは将来に向かって何をやりたいのか?と問いますと、長期的な利益成長ということになります。しかし、それはあくまでも目標であって目的ではありません。経営理念である「創造・奉仕・協力」を実現すること、それを永遠に求め続けることが当社の事業目的です。この経営理念やビジョン・コアバリューは不変のものです。

「社長がこう言ったから」あるいは「上司がこう言ったから」ということではなく、この不変の理念・コアバリュー、そしてその時々会社で決定した長期目標・方針に忠実である会社でありたい、と考えています。上司が言ったことに対して、部下が「それはうちの方針に合っていないよな」と正しい方向に意見して議論できるような会社でありたいですね。

創業当時の「世の中のお役に立つものを提供したい」「事業を通じて世の中に貢献できる企業でありたい」という思いを大切にしていきたいと考えています。社内では昔から言われてきた「儲かると儲けるは違う」という話をしています。「儲ける」=利益を目的にすると会社は歪んでしまいます。ドラッカーは顧客の創造と説明しましたが、「世の中のお役に立つ、貢献することで、自然と儲かる会社」であることが大切。来年には創業100年を迎えますが、創業当時から続く「志」を今後も大切にしたいと感じています。



LEとは (Lifting Equipment)

LEとは

LEとはLifting Equipment、日本語では(移動機能付)抗重力・空間作業機械のことを指します。

私たちの長期目標の1つはお客様に信頼され選ばれる「LE世界No.1」の企業です。

LEは国土開発や都市開発、資源・エネルギー開発にも欠かせませ

ん。何十トンもの重量物を高く持ち上げて移動させる仕事は、人海戦術では対応できないからです。

LEにしかできない仕事があり、社会貢献がある。私たちはLEという分野で、世界中のお客様から「かけがえない企業」と言っていただける企業を目指しています。

LE業界各社の比較

保有カテゴリ	油圧式クレーン	伸縮アーム式クローラークレーン	クローラークレーン	タワークレーン	直伸式クレーン	折曲式クレーン	高所作業車	天井クレーン	港湾クレーン	オフショアクレーン	インダストリアルクレーン
A社	○		○	○					○	○	○
B社	○		○	○			○		○		○
C社						○			○	○	
D社	○		○	○	○						○
Tadano	○	○			○		○				

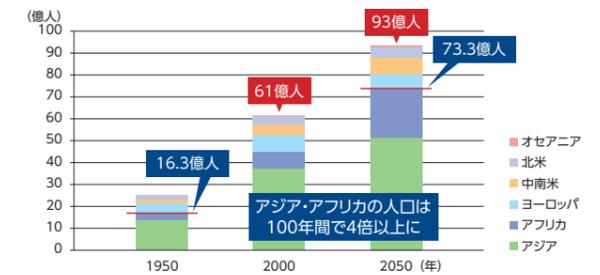
LEは成長産業

人口動態的に考えれば、LEは長期的に見て「成長産業」であり、業界も当社も今後のポテンシャルは高いと考えています。

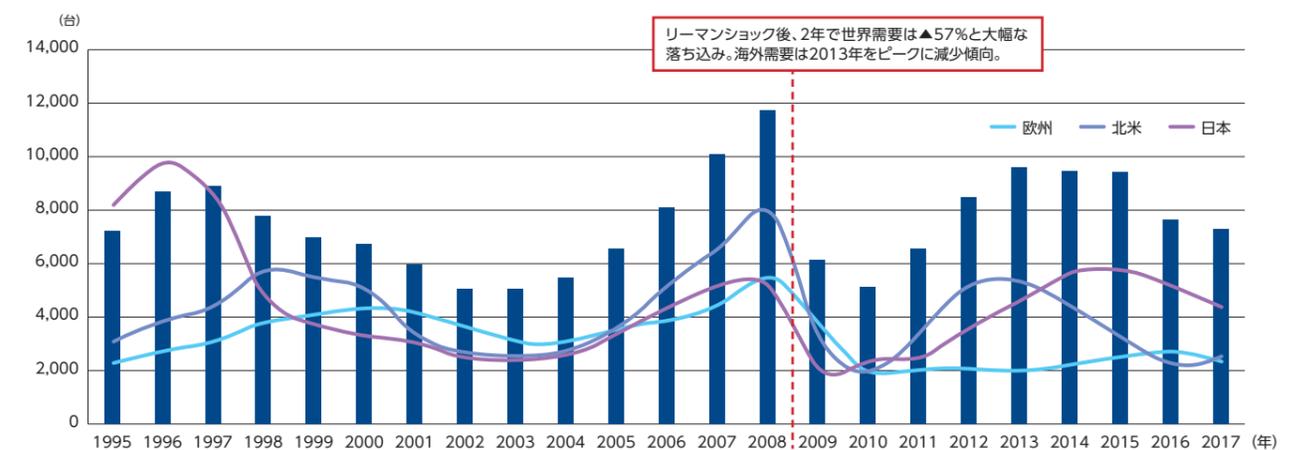
ただし長期的には右肩上がりでも、短中期的には需要がアップダウンを繰り返す傾向があります。

LE世界No.1となるために、私たちは「商品力」「製品品質」「(部品を含めた)サービス力」「中古車価値」の4つが高いレベルでバランス良く整った「四拍子そろったメーカー」を目指しています。

世界の人口動態(予測・国連)



建設用クレーンの世界総需要推移(暦年ベース)



注1. 折れ線グラフは欧州・北米・日本の需要推移を表したものです。それぞれの市場の需要が最も低かった年(欧州・北米は2010年、日本は2009年)の台数を「1」とし、各年での増減比率を示しています。
 注2. このグラフでは、2010年以降「中国国内で生産し、中国国外へ販売されたクレーン」の数に新たに統計を加えました(2018年春に設定した新基準)。しかしながら「中国国内で生産し、中国国内で販売されているクレーン」は含まれていません。中国国内の総需要は下記のとおりとされています。
 2010年:約3万5千台、2011年:約3万5千台、2012年:約2万2千台、2013年:約1万7千台、2014年:約1万4千台、2015年:約9千台、2016年:約9千台、2017年:約2万台

価値創造プロセス

Value Creation Process

INPUT

設備投資

2,838百万円

研究開発費

6,149百万円

特許所有件数

561件

従業員数

3,311名(連結)

海外ネットワーク

100拠点以上
(グループ会社・代理店)

エネルギー消費

5,670キロリットル
(原油換算・日本国内)

(2017年度)

ビジネスモデル



1955年に日本初の油圧式トラッククレーンを開発 (LEに関する60年以上の実績)

コアテクノロジー
構造体技術
動作制御技術
走行体技術など

高度な生産技術
(高張力鋼板の加工・溶接など)
グローバル生産体制

学習し、成長し続ける組織文化
(人財育成への注力)

「中期経営計画」による
3年ごとの戦略設定

ビジョン「世界に、そして未来に誇れる企業を目指して」

私たちタダノグループは、全てのステークホルダーの期待に応え企業価値を最大化します。また「学習し、成長し続ける組織文化」を構築します。

より付加価値の高い製品・サービスを社会に提供し、お客様に選ばれる・選ばれ続けるメーカーになるために、私たちは「商品力」「製品品質」「(部品を含めた)サービス力」「中古車価値」の4つが高いレベルでバランス良く整った「四拍子そろったメーカー」を目指しています。

OUTPUT

- 建設用クレーン
 - ・オールテレーンクレーン
 - ・ラフテレーンクレーン
 - ・トラッククレーン
 - ・伸縮ブーム式クローラクレーン
- 創造・奉仕・協力 (経営理念/事業目的)
 - 安全・品質・効率 (コアバリュー) **P03-04**
 - 新工場への投資 **200**億円以上 **P10**
 - 新製品の発売 **9**機種 (海外向け新型トラッククレーンなど) **P15-22**
 - ステークホルダーとの継続的で良好な関係構築 **P23-28**
 - 経営の透明性・健全性・効率性 (コーポレート・ガバナンス) **P29-30**
 - 海外における新規のグループ会社・拠点設立 **6**か所 (タイ・ベトナム・オランダ・ベルギー・チリ・モスクワ) **P39-40**
- 車両搭載型クレーン
 - ・カーゴクレーン
 - ・スライドキャリア
- 高所作業車
 - ・スーパーデッキ
 - ・スカイボーイ
 - ・ブリッジチェッカー
- 中古車
- その他サービス
 - ・ピフォアサービス (保全・メンテナンス)
 - ・アフターサービス (修理・部品供給)

商品力

製品品質

(部品を含めた) サービス力

中古車価値

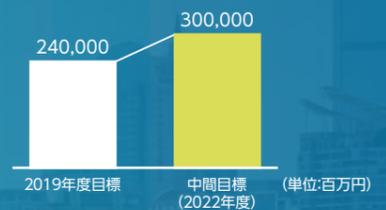
コアバリュー「安全・品質・効率」

私たちタダノグループが絶対に譲れない価値観として追い求めるものです。安全第一・品質第二・効率第三という優先順位はどんな時も変わりません。ただし三番目の効率を抜きにして企業経営は成り立ちませんので、そのためにも「安全第一」「品質第二」を何としても確保しなければならない、と考えています。

OUTCOME & PLAN

連結売上高

173,703百万円



営業利益

15,511百万円



海外売上高比率

43.8%



建設用クレーン

グローバルなニーズに応えるフルラインナップ

製品の 特長



何十トン、時には数百トンを超える重量物を軽々と持ち上げ、安全にスムーズに移動させるのは、大型の建設用クレーンだからできる仕事。鉱山や油田などの資源・エネルギー開発プラント、ビルや橋梁、大規模な都市開発などの過酷な現場でハードに働く建設用クレーンにとって何より重要なのは、安全性と信頼性です。

事故はいうまでもなく、ちょっとしたトラブルによるダウンタイムもお客様のビジネスに大きな影響を与えてしまいます。極寒のカナダや酷暑の中東などの過酷な作業現場でこそ、信頼性から選ばれているのがタダノの製品です。

売上高

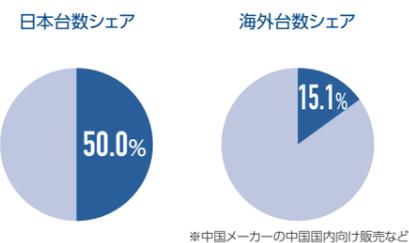
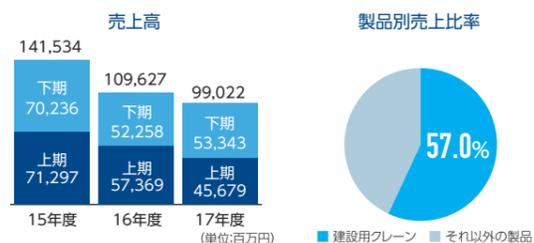


日本向け売上は、拡販に注力したものの、需要の減少と機種構成の影響もあり、381億7千9百万円(前期比84.8%)となりました。

海外向け売上は、主力のラフテレーンクレーンの

需要減少により、608億4千3百万円(前期比94.2%)となりました。

この結果、建設用クレーンの売上高は990億2千2百万円(前期比90.3%)となりました。



トピックス

2017年8月24日、海外向け2軸キャリアのラフテレーンクレーンでは当社最大の「GR-1200XL/1100EX」を発売

海外市場、特に北米における原油・ガス等エネルギー開発の現場では、付設するプラント等の大型化に伴い、その建設またはメンテナンスに使用される移動式クレーンの大型化・長尺化と共に、狭所への進入性に優れた大型ラフテレーンクレーンが求められています。2軸キャリアとしては、タダノ最大の吊り上げ能力とロングブーム化を実現、かつコンパクトな当モデルは、2017年4月に開催されたコネクスボ展(米国ラスベガス)でも大きな反響がありました。

2017年10月19日、海外向けトラッククレーン3機種「GT-750EL/600EL/300EL」を発売

アジアや中東などを中心とした海外のトラッククレーン市場では、近年50トンクラス以上の吊り上げ能力のニーズが高まり、併せて高速走行や悪路走行にも応える高い走破性が求められています。「Crafted in Japan」の同機への信頼は高く、各市場で受注が進んでいます。

LINEUP

ラフテレーンクレーン

タダノの技術の粋を集めた主力製品。海外では大規模プラントの建設・メンテナンスにも使われています。狭い現場でも機敏に対応できるコンパクトさと機動力、操作性を備えており、世界中で高い評価をいただいています。

日本の建設用クレーンの中心機種で、日本の総需要の93%、北米総需要の55%を占めます。

日本向け:
13トンから70トン吊りの6機種
海外向け:
13トンから145トン吊りの8機種
(日本、海外向け共に国内で生産)



生産拠点:志度工場(日本)



GR-700N



ATF400G-6

オールテレーンクレーン

都市開発や高速道路、橋梁といったインフラ整備の現場などで活躍する大型クレーンです。遠距離走行性^(※)に加え、ステアリングの特徴から小回り性にも優れています。不整地から高速走行まで対応できる走行性を実現するとともに、数百トンの荷を難なく吊り上げる能力を備えています。日本の総需要の6%、欧州総需要の87%を占めます。

日本向け:
100トンから550トン吊りの6機種
海外向け:
40トンから400トン吊りの10機種
(日本向けの一部製品は国内で生産)

(※) 欧州では分解走行が不要ですが、日本での一般道走行時には分解搬送が必要です。



生産拠点:タダノ・ファウン GmbH(ドイツ)

トラッククレーン

汎用または専用トラックに架装するクレーンです。日本では高速道路走行が可能のため、レッカー機能を持たせて緊急時に機敏に対

応。海外では高速走行性をもつ大型クレーンとして使われ、メンテナンスに対するコストパフォーマンスの高さから特に新興国で人気です。

日本向け:
13トンから35トン吊りの3機種
海外向け:
30トンから75トン吊りの6機種
(海外向けの一部製品はドイツで生産)



生産拠点:志度工場(日本)



GT-750EL

伸縮ブーム式クローラクレーン

広大なアメリカで、泥濘地を含めたさまざまな環境で効率よく作業するように開発されました。クローラキャリアの低重心の利点を活かし、荷を吊ったままの走行にもその強さを発揮。高さに余裕のないトンネルやプラント、オイルタンクなどの建設現場でも活躍します。

海外向け:
27トンから120トン吊りの7機種



生産拠点:タダノ・マンティス Corp.(米国)

※海外のみ販売(米国で生産)。



GTC-1200

車両搭載型クレーン

使いやすさと高機能で選ばれる

車両搭載型クレーン(カーゴクレーン)は運輸業や造園業、建設業など、幅広い業種のお客様の荷役作業にお使いいただいている一番身近なクレーンです。カーゴクレーンに求められるのは、最少の人数で、積載・運搬・荷下ろしを安全に、簡単に行える操作性です。タダノでは安全性と効率を高めるために、クレーンの状態を見ながら操作できる液晶デジタルラジコンを早くから採用。また、クレーン業界で初の「アイドリング・ス

トップ」機能を実現し、省エネ・環境性能を飛躍的に高めることに成功しました。

カーゴクレーンのほかにも、さまざまなお客様のニーズに対応できる「目的別製品」も製造しています。たとえば、道路と鉄道の線路を走行できる「軌道陸上兼用車」など、安全性や効率を高めて社会やお客様の課題解決に貢献するさまざまな目的別製品で、LEの新たな領域を開拓しています。

の整備に注力し、17億6百万円(前期比118.5%)となりました。

この結果、カーゴクレーンの売上高は196億7千7百万円(前期比100.2%)となりました。

製品の 特長



売上高

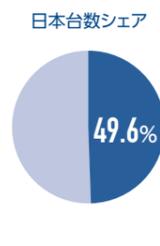
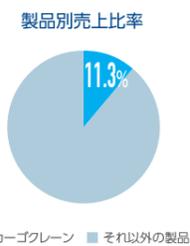


日本向け売上は、排ガス規制の反動減により年度後半にトラック需要が減少する中、拡販に注力し、179億7千万円(前期比98.8%)となりました。

海外向け売上は、東南アジア・中東向けの販売体制

売上高		
20,375	19,633	19,677
下期 10,417	下期 10,098	下期 9,603
上期 9,957	上期 9,534	上期 10,074
15年度	16年度	17年度

(単位:百万円)



2017年5月、タイにカーゴクレーン販売強化のための合併会社を設立

当社は、タイでのカーゴクレーンの販売強化を目指すため、タイの代理店であるItalthai Industrial Co., Ltd. (イタルタイ・インダストリアル) との間で、製品の販売・サービスを行う合併会社を設立しました(資本金は5千万タイバーツ)。

グループとしてカーゴクレーンの海外販売を強化する中で、大型クレーンを中心にタダノの代理店を長く務めてきたイタルタイ・インダストリアルとの間で現地合併会社を設立したことにより、当社のメーカーとしての製品ノウハウと、同社の販売ノウハウを融合し、きめの細かい市場ニーズへの対応と、更なるシェアアップを目指します。

トピックス

LINEUP

カーゴクレーン

日本向け

日本国内では1963年にTMシリーズを発売以来、多くのお客様にカーゴクレーンをご愛顧いただいています。

生産拠点は2007年に開設した香川県・多度津工場です。

環境にも配慮しており、ZE600シリーズは初のアイドリングストップ機能をオプション設定しました。また、法改正を受けて2019年3月から安全装置の設置が義務づけられる予定です。



生産拠点:多度津工場(日本)



ZE290シリーズ

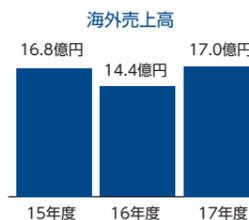
海外向け

2012年にタイに当社として初のカーゴクレーンの海外生産拠点を開設しました。販売先としては、東南アジア、中東を主要なターゲットとしています。

現在は、吊り上げ能力10トンクラス、8トンクラス、5トンクラスの計3機種のカーゴクレーンを生産し、市場の状況を見て順次生産機種を拡大する予定です。今後の需要動向により第2工場の建設も視野に入れています。



生産拠点:タダノ・タイランド(タイ)



その他目的別製品

カーゴクレーン以外にも、多種多様なニーズに対応する製品を開発しています。千葉工場では、自動車運搬車(スライドキャリア/スーパーセルフローダ)を製造しており、日本国内有数のシェアを誇っています。また「軌道陸上兼用車」は、現場近くの踏切でタイヤから鉄輪へと移動手段を切り替え、スムーズに現場へ急行できる鉄道工事用の作業車です。ほかにも、重機などの建設機械を積載し運搬できる産業用車両運搬車(セルフローダ)や、海上で活躍する船舶専用油圧クレーン(マリנקレーン)など、お客様のさまざまな課題解決に応えています。



スライドキャリア/スーパーセルフローダ
生産拠点:千葉工場(日本)



船舶専用油圧クレーン
(マリנקレーン)

ZR500MRシリーズ

産業用車両運搬車
(セルフローダ)



SL-155R

軌道陸上兼用車



TM-ZE295DW(S)

車両運搬車
(スライドキャリア/
スーパーセルフローダ)



SS-38F HYBRID

高所作業車

安全性・利便性・快適性を追求する

製品の特長



高所作業車は「人を乗せて作業する機械」であり、安全性、利便性、快適性がとりわけ重要になります。当社は、先進の制御技術で操作の自動化、操作性の向上、環境性能の向上（低騒音、省エネ、CO₂排出量削減）を推進しています。特に一つのレバーでデッキが垂直移動・水平移動ができる世界初の「4軸協調制御」

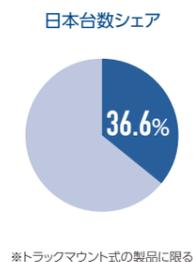
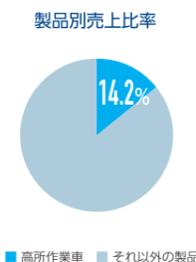
技術を搭載したスーパーデッキは、高所作業車に新しい歴史を開いた画期的な製品として高く評価されています。また、豊富なラインナップでさまざまなお客様の要望にお応えしています。

売上高



インフラ維持管理用途のニーズを背景にしたレンタル業界向け売上に加え、通信業界の設備投資の拡大も

あり、高所作業車の売上高は、過去最高の246億7千8百万円（前期比106.4%）となりました。



ブリッジチェッカー (BT) シリーズの累積販売台数が今夏1500台を突破

当社は、1995年にBT-100を発売以来、高速道路の遮音壁工事や足場の設営・撤去を主とした橋梁点検車の市場を形成してきました。1960年代の高度成長期に建造されたインフラの老朽化が社会問題化するなか、2007年、国交省により「橋梁の長寿命化修繕計画策定事業」が創設されました。これを契機に、2014年には橋梁の定期点検が法制化され、需要は急拡大し、BT販売台数の伸びは顕著になりました。17年度決算では

高所作業車の売上が過去最高となり、BTはその約24%を占めています。現在では、高速道路のオーバークロス工事を主とする「BT-110」、一般道路の橋梁点検を主とする「BT-200」、また大型橋梁に対応する「BT-400」と小型から大型までのラインナップを揃え、国内の橋梁点検車市場では約85%のシェアを誇ります。

トピックス

LINEUP

スカイボーイ

作業床に2名程度搭乗できるスタンダードな高所作業車シリーズです。トラック式は機動性に優れ、現場間の移動が容易です。ホイール式は走行部分にゴムタイヤを使用しているため走行路盤を傷つけることなく現場内での連続作業が可能で、造船工事などで威力を発揮します。

- ・電気工事用(トラック式)3機種
- ・通信工事用(トラック式)7機種
- ・一般工事用(トラック式)12機種
- ・一般・造船工事用(ホイール式)2機種



電気工事用(トラック式)

通信工事用(トラック式)

一般工事用(トラック式)

一般・造船工事用(ホイール式)

スーパーデッキ

最大積載荷重1,000kgの大型作業床が特徴の高所作業車です。機材や資材を積んでの作業に威力を発揮します。独自の4モードコントロールにより、水平・垂直・斜め上下移動が可能。操作性にも優れ、様々な現場で効率的な作業を実現します。

- ・5機種



AT-150S

ハイパーデッキ

地上40mの高さでも作業が可能な超高所作業車です。独自の制御システムで操作性に優れ、目的のポイントにもスムーズにアプローチできます。超高所・超広域での多彩な作業を強力にバックアップします。

- ・1機種



AT-400CG

その他目的別製品

高所分野でも、多種多様なニーズに対応する製品を開発しています。例えば、高架道路・橋梁点検車「ブリッジチェッカー」、災害復旧・夜間工事、夜間イベントなどで活躍する照明車「メガルクス」、電柱工事に威力を発揮する穴掘建柱車「ポールセッター」など、安全性や効率を高めて社会やお客様の課題解決に貢献するさまざまな製品を開発し、LEの新たな領域を開拓しています。



生産拠点:高松工場(日本)

高架道路・橋梁点検車 (ブリッジチェッカー)

- ・3機種



BT-400

穴掘建柱車 (ポールセッター)

- ・2機種



DT-720

照明車 (メガルクス)

- ・1機種



LS-1800

その他

サービス力の強化と中古車価値の維持・向上を目指して

売上高



製品の修理や部品販売などのCS(カスタマーサポート)および中古車販売その他の売上高は、ストックビジネスへの取り組み強化により、303億2千4百万円(前期比111.4%)と、過去最高となりました。

その他売上高
(中古車クレーン、その他製品)

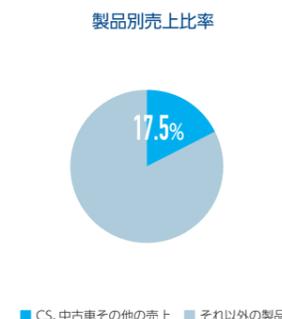
15年度	16年度	17年度
下期 4,153	下期 4,912	下期 5,595
上期 4,642	上期 4,205	上期 5,527
8,795	9,117	11,122

(単位:百万円)

その他売上高
(部品、修理他)

15年度	16年度	17年度
下期 9,792	下期 9,121	下期 9,720
上期 9,495	上期 8,973	上期 9,481
19,288	18,095	19,201

(単位:百万円)



当社は「商品力、製品品質、(部品も含めた)サービス力、中古車価値」の四拍子揃ったメーカーを目指しており、新製品の商品力、品質の向上はもとより、未永く製品を活用していただく取り組みも進めています。それが(部品も含めた)サービス力の強化と中古車価値の維持・向上です。

2017年10月にグループの中古車事業統括と戦略立案、ライフ・サイクル・バリュー(LCV)の向上を推進する「LCV推進部」を新設しました。LCV向上への取り組みの1つに保守部品の供給があります。グループの部品供給のハブ拠点である神戸市のグローバルパーツセンターでは、7万を超えるアイテムと、ピース数でおよそ100万点の部品を保有しており、国際貿易港や国際空港に近い立地を活かして、日本・海外ともにデリバリータイムの短縮を実現しています。日本6カ所の部品センターでは、グローバルパーツセンターとの連携

による最速での部品出荷のほか、永年の実績に基づいて担当エリアごとに需要の多い部品を常時ストックし、製品のダウンタイムの短縮に一翼を担っています。

また再生事業にも注力しています。特殊製品のリニューアル、コンポーネント部品の調整や修理、クレーンフレームの亀裂など構造物修理、生産終了部品の代替により、ダウンタイムの短縮や修理費用の抑制を実現して、製品寿命を長く、価値を維持する取り組みを行なっています。

これら取り組みの成果は徐々に現れており、当社製品の中古車が高く評価されている要因の一つとなっています。



「感動サービスの提供」に向けた取り組み

クレーンのダウンタイムはお客様のビジネスの損失に直結しますので、当社では「こまめやってくれるのか!」と言っていただけの「感動サービスの提供」に取り組んでいます。CS部門のミッションは「お客様の『確実な安全作業』と『商品価値の最大化』のために「感動サービス」をお届けします」。ミッション達成に向け、「ビフォーサービス」「アフターサービス」「安全教育」の3つの分野に注力しています。

ビフォーサービスでは、HELLO-NETを活用した、お客様、サービス工場、当社の3者間でメンテナンス状況や整備履歴を共有する、「タダノメンテナンスパック」や高度化したエンジンのメンテナンスに特化した「TADANOエンジンケアパック」の普及により、製品のダウンタイムや整備不良による事故の減少を目指しています。

アフターサービスでは、日本では10支店と23営業所に加え、全国352か所の認定サービス工場と939名の認定サービス員によるサービス体制を構築しています。海外では直接サービスに加え、100か所を超える代理店が世界をカバーしています。体制の整備とともに進めているのが、サービスの質を高める取り組みです。現地で開催する技術講習会のほか、本社の最新トレーニングセンターでの体系的な教育で、日本・海外のサービス員の人財育成を進めています。

また2018年2月には、VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育を導入するなど、作業中の事故防止にも力を入れています。



VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育

現場のクレーンとお客様、タダノをつなぐHELLO-NET



通信衛星や携帯端末などを用いてクレーンの稼働状況をリアルタイムで手軽に把握。故障の前兆をキャッチし、事前にメンテナンスする「ビフォーサービス」を可能にします。ラフテレーンクレーンを中心に標準搭載化を進めており、日本で約7,500台、海外では約4,500台が稼働。現在はオールテレーンクレーンや高所作業車へも展開しています。

その他製品



門型油圧リフター(TB-1000)

移動式クレーンや天井クレーンが使用できない屋内設備・クリーンルーム・トンネルなどの特殊な環境においても、重量物の搬入搬出・据付作業などを安全・効率的に実施。



オールテレーンクレーン着脱リフター(ATF400G-6のブーム着脱作業例)

お客様への約束

研究開発の取り組み

お客様にとって最高の製品をお届けするために、タダノの開発者は、現場に足を運び、自分の目と耳で現物・現実を確認し、真のお客様の声を聞いて考えます。「お客様のお役に立つ製品を作りたい。使いやすさと安心感を提供し続けたい。」そんな思いが、新しい機能の開発に挑戦する原動力となっています。

京都大学と包括連携共同研究の契約を締結

当社の技術と、京都大学の機械工学・社会工学・都市工学・情報科学等に関する最先端の学術的知見を組み合わせるべく、2018年3月に契約を締結しました。建設作業の安全性と生産性を向上させるイノベーション創出を目指します。



低温試験棟の開設

製品の活躍がグローバルに広がる中、極寒・灼熱の地では想定より動作が遅くなったり、予期せぬ現象が起きることもあります。コアバリューに更なる磨きをかけるためにも、過酷な温度環境の中で製品を動かして試験できる設備が必要と考え、2016年、志度工場に建設しました。室内温度はマイナス40度からプラス60度まで変化し、さまざまな試験が可能です。



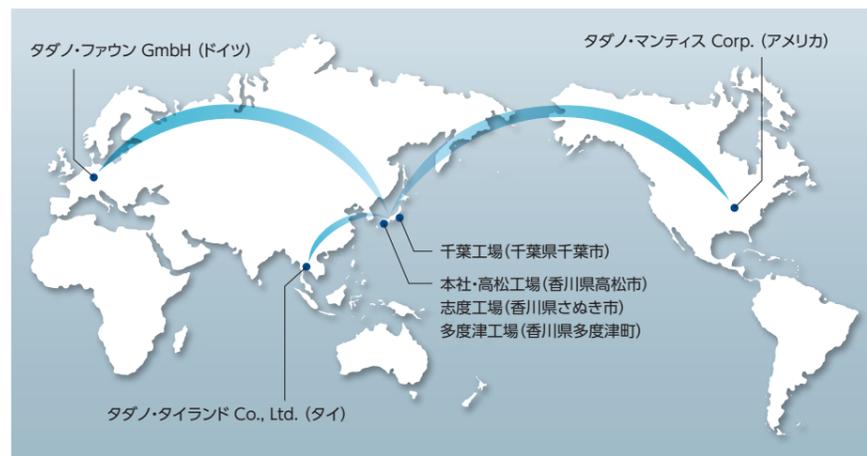
ベンチャーキャピタルファンドへ出資

みやこ京大イノベーション投資事業有限責任組合(みやこキャピタル(株)運営:京都市)に、2017年12月に3億円を出資しました。独自技術を持つ研究開発型ベンチャー企業とのネットワークを獲得し、オープンイノベーションに取り組んでいきます。

グローバル生産体制と品質向上への取り組み

グローバル生産体制を構築

日本をマザー工場に位置づけながら、ドイツ、アメリカ、タイと、それぞれのニーズにあった製品を生産し、生産効率とコスト競争力に優れたグローバル生産体制を構築しています。日本流のものづくりを海外拠点でも浸透させて「世界統一品質」を作り、タダノブランドへの信頼を高めることを目指しています。また部品を相互に供給するクロスソーシングを推進し、品質と効率の更なる向上に取り組んでいます。



品質向上への取り組み

複雑で繊細な機械のクレーンは経験学的な要素が多く、「人の技術や技能の向上」が品質の大きな鍵となります。「専門技能の習得」と「多能工化」という二つの側面から人財育成を推進し、品質向上と多能工化による効率的な生産を実現しています。

当社は1996年に品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得しました。同時に

開発の初期段階から、また万一市場で品質問題が発生した場合の迅速な対応に至るまで、お客様に満足をお届け続けられるように業務プロセスを革新しました。生産部門では、2007年から「コアバリュー活動」を導入し、管理ボードの運営などによる日々の品質状況のみ見える化と改善への取組み(PDCAサイクル)を、全生産拠点で展開しています。



社員との約束

健康経営への取り組み

社員の成長こそが、長期目標達成の原動力であり、社員の成長なくして企業の成長はありません。社員一人ひとりが良い仕事をし、良い人生を歩むためには、心と身体の健康が重要と捉え、「健康経営宣言」を制定しました。

健康経営優良法人に認定

当社は1981年に「心とからだの健康づくり運動」をスタートし、社内に設置した「体力増進センター」を社員と家族に開放するなど、健康文化の育成に取り組んできました。2018年2月には、経済産業省・日本健康会議において発表された「健康経営優良法人2018(大規模法人部門)~ホワイト500~」に認定されました。



健康経営宣言

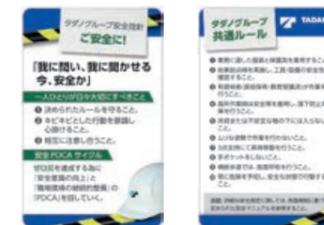
タダノは、1981年に「心とからだの健康づくり運動」をスタートし、積み重ねてきた「健康文化」があります。その「健康文化」を継続し更に発展させていくために、社員一人ひとりの「心とからだの健康づくり」を大切に、活き活きと働ける明るい職場づくりに、組織全体で取り組むことを宣言します。

2018年5月
代表取締役社長 多田野宏一

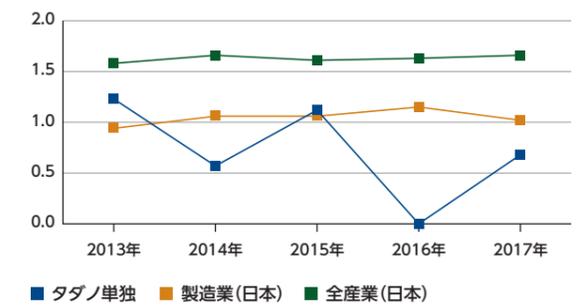
労働環境への取り組み

タダノグループ安全指針の策定

グループ社員の更なる安全意識の向上を目指して、2017年12月に「安全指針カード」を作成しました。表面に「安全への思い」を、裏面には「タダノグループ共通ルール」を掲載しています。本カードは、日本語、英語、ドイツ語、フランス語、タイ語の5カ国語で作成し、グループ全社員に配布しています。



労働災害の発生状況(度数率*)



*100万のべ実労働時間あたりの労働災害件数で、休業災害発生頻度を表します。(製造業及び全産業(総合工業系除く)の数値は厚生労働省労働災害動向調査から引用)

人財育成・ダイバーシティの推進

TQM活動

「目指すべき未来(理念・目標)は、日々の仕事(=プロセス)の積み重ねで実現できる」との考えのもと、2011年にTQM推進委員会を設置し、「タダノウェイの浸透・共有」「方針管理・日常管理の徹底」「改善力強化と人財育成」の3つの活動を進めてきました。

タダノウェイとは、歴代の経営者、先輩社員たちが語った「私たちが大切にしたい考え方・行動」をまとめたものです。グループ社員みんなが共有することで、One Tadanoを目指します。また上司、同僚、部下と一緒に考える場として「ウェイミーティング」と称したコミュニケーションの場を設けています。



ダイバーシティの推進

「企業は人なり。人の成長なくして、企業の成長なし」「人は財産(=人財)」という考えのもと、人財育成を大切にしています。

ダイバーシティの推進にも努めており、2016年には、女性の活躍を推進する行動計画を策定しました。現在、タダノ単独では社員の7%を占めるにとどまっている「女性社員比率」を、10年後には10%にするため、計画的な採用を進めるとともに、次世代リーダーとして活躍できるよう研修の受講機会を増やすなど、女性が活躍できる環境整備・職場配置を進めています。

取引先との約束

基本的な考え方～購買先との共生

私たちは、全ての購買先と強い信頼関係を築き、お互いに成長できるよう努めています。タダノグループCSR規範では以下のような考え方を定めています。

タダノグループCSR規範より(抜粋)

- ① 私たちは、すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づき、独占禁止法等の関係法令を遵守した公正な取引を行います。
- ② 私たちは、談合やカルテル行為・公正かつ自由な競争を阻害する行為・自由な競争の制限につながる会合等への参加や情報交換及び疑惑を招くような行為を行いません。
- ③ 私たちは、資材等の調達先及び協力先に対し、優位的な地位を利用して不当な不利益を及ぼすような行為、取引を行いません。
- ④ 私たちは、調達等に関する職務に関連して、個人的な利益や便宜の供与を受けません。
- ⑤ 私たちは、取引先等との接待、贈答品の授受に関して、健全な商習慣や社会通念に従って行います。

また、当社ではSOC4物質の不使用など「環境に優しい製品づくりを進めており、購買先にも理解・協力をいただいています。

基本的な考え方～購買先との共生

競合他社に負けない技術・能力を持ち、21世紀に生き残れる自立した提案型団体になることを目指し、1994年に購買先と当社にて「タダノ協栄会」を発足しました。発足から現在まで、購買先と長期的な信頼関係を結び、お互いに成長発展を続けてきました。会員企業は合計58社(2018年4月時点)で、活動としては安全研修会、改善活動発表会、工場見学会、SVEカンファレンスなどを毎年実施しています。また、優良な購買先への表彰も毎年行っています。



協栄会メンバーの工場見学会



購買先の年度表彰

Win-Winの関係を旨として ～「四位一体のSVE活動」の推進

よりよい製品を開発・生産するために、購買先とタダノの3部門(開発・生産・購買)がまさに「四位一体」となって、2009年からSVE活動を推進しています。SVEとは当社独自の活動で、VEに「S(Super and Sustainable)」を付け、今までのVE活動を超越する活動として、永続的に将来に向かって力強く継続できる活動にしたいという思いが込められています。

SCOOP活動

SVE活動の中核を担う「SCOOP(Super Cooperation/素晴らしい協力)活動」は、2011年からスタートし、購買先とともに個別のテーマ・目標を設定し、お互いの強みや特性を活かしながら価値・機能向上やコスト削減に取り組む活動です。

SVEカンファレンス

SVE活動を更に大きくかつ継続できる活動とするために、2012年から「SVEカンファレンス」を年に2回開催しています。2018年4月20日に開催された「第13回SVEカンファレンス」では、40社80名の購買先と、タダノグループより役員を含む92名の計172名が参加しました。今回のカンファレンスでは「SCOOP活動」に関する5つのテーマについて発表がありました。

テーマの一例(第13回SVEカンファレンスより)

- キャリアフレームのデザインイン活動
- ウィンチ用カウンタバランス弁の圧力損失低減
- キャブ内配線工程のVE活動
- 上部油圧機器のユニット化
- 3D-CADデータのさらなる活用



SVEカンファレンス(購買先の発表)

株主・投資家への約束

当社のIR方針について

タダノグループCSR憲章・規範では、株主・投資家の皆さまを重要なステークホルダーの1つと位置づけ、「株主・投資家の資産価値を高めるよう業績の向上と長期的かつ安定的成長に努めます」と約束しています。

私たちはすべてのステークホルダーに対し、関係法令の遵守はもとより、経営や事業活動状況など企業情報を適時かつ適切に開示します。具体的には、東京証券取引所が提供する「適時開示情報伝達システム(TDnet)」を通じて開示するとともに、内容に応じてニュースリリースの発信や当社ウェブサイトへの掲載しています。

また東京にて「アナリスト決算説明会」を年2回開催し、社長自ら決算の状況や当社事業の方向性について説明しています。また機関投資家の皆さまをはじめとする企業訪問や工場見学も積極的に

受け入れています。

なお当社は、決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、本決算ならびに四半期ごとの決算期日の翌日から決算発表日までを「沈黙期間」とし、決算に関する問い合わせへの回答やコメント等を差し控えています。



アナリスト決算説明会(東京)

IRカレンダー

イベント	2018年度	2017年度(参考)
2018年3月期 決算発表	2018年 4月27日	2017年 4月28日
アナリスト決算説明会(東京にて)	2018年 5月15日	2017年 5月15日
第70回 定時株主総会	2018年 6月26日	2017年 6月27日
2019年3月期 第1四半期業績発表	2018年 7月31日	2017年 7月31日
2019年3月期 中間決算発表	2018年10月下旬	2017年10月30日
アナリスト中間決算説明会(東京にて)	2018年11月中旬	2017年11月8日
2019年3月期 第3四半期業績発表	2019年 1月下旬	2018年 1月31日

アナリスト・カバレッジについて

タダノの業績などを分析し、当社株式の推奨、論評などを行っている証券会社のアナリストの方々をご紹介します。(2018年3月末時点)

社名(50音順)	アナリスト氏名
株式会社いちよし経済研究所	高辻 成彦 氏
CLSA証券株式会社	エドワード ボーレー 氏
JPモルガン証券株式会社	佐野 友彦 氏
株式会社東海東京調査センター	大平 光行 氏
マッコーリキャピタル証券株式会社	境田 邦夫 氏
みずほ証券株式会社	星 学 氏
モルガン・スタンレーMUFJ証券株式会社	井原 芳直 氏

<注意事項>

- この一覧は、掲載時点で当社が入手可能な情報に基づいて、当社に関するレポートの発行を確認できる証券アナリストの方々を掲載しています。従って、この一覧には掲載していないアナリストも存在し得ること、またすべての情報が最新ではない可能性があることを、あらかじめお断りしておきます。
- この一覧の掲載に関しては、当社の業績などを分析、予測する企業または調査機関のアナリストの情報を紹介するという趣旨のみで掲載しており、当社株式の売買を勧誘するものではありません。
- この一覧のアナリスト、およびこの一覧に掲載されていないアナリストは、定期または不定期に、独自の判断に基づいて当社の業績、事業、製品、技術などを分析し、あるいは業績を予測しております。それらのいかなる過程にも、当社または当社の経営陣は一切関与していません。実際の投資に際しては、ご自身の判断で行われるようお願い致します。

社会への約束

当社は2005年にCSR委員会を設置し、CSRの推進・浸透に取り組んでいます。タダノグループは「企業が社会や人との調和の中で生かされている存在」との認識のもと、地域社会・国際社会発展への貢献と地球環境の保全に役立つ事業活動を推進し、全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を最大化することで「世界に、そして未来に誇れる企業」を目指します。この理念にもとづき、2006年に企業の行動指針としての「CSR憲章」と、これを実行するための社員個人の行動指針「CSR規範」を制定しました。

「創造・奉仕・協力」の経営理念にもとづき、「タダノにしかできない社会貢献」を通じて、社会のお役に立てればと考えています。

CSR憲章

私たちタダノグループは、「企業が社会や人との調和の中で生かされている存在」との認識のもと、地域社会・国際社会発展への貢献と地球環境の保全に役立つ事業活動を推進し、全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を最大化することで、「世界に、そして未来に誇れる企業」を目指します。

- 一. お客様事業価値の向上
私たちは、安全と品質に配慮した製品・サービス・システムをお届けし、お客様の事業価値向上に努めます。
- 一. 投資価値の維持・向上
私たちは、株主・投資家の資産価値を高めるよう業績の向上と長期的かつ安定成長に努めます。
- 一. 新しい技術への挑戦
私たちは、お客様に感動して頂けるような独創性溢れる製品・サービス・システムづくりに挑戦します。
- 一. 社会との共生
私たちは、よき企業市民として、国・地域等の法令、慣習、文化を尊重し、その発展に寄与する事業活動に努めます。
- 一. 誠実な事業活動
私たちは、公正で透明性のある誠実な事業活動に努めます。
- 一. 地球環境との調和
私たちは、全ての事業プロセスにおいて地球環境との調和に努めます。
- 一. 社員の尊重
私たちは、社員一人ひとりの個性を尊重し、活き活きと働ける健康な明るい職場づくりに努めます。
- 一. 適切なコミュニケーション活動
私たちは、よきパートナーである全てのステークホルダーに対し、正確な情報を適時、適切なコミュニケーション方法で開示し、長期的な信頼関係の維持に努めます。
- 一. 取引先との共生
私たちは、全ての取引先と強い信頼関係を築き、互いに成長し、共生するよう努めます。



環境への取り組み

タダノグループは、地球環境を保全し持続可能な社会づくりに貢献するための取り組みを推進しています。2008年には環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得し、製品のみならず事業活動においても環境負荷低減への取り組みを進めています。

具体的には、志度工場に2,000平方メートルの太陽光パネル(最大出力260kw)を設置したり、志度工場に隣接する港を整備してバージ船を利用した製品輸送に取り組んだり、事業所での節電に努めたり、と取り組みを続けています。

なお、日本国内における2017年度のエネルギー消費量は5,670キロリットル(原油換算/エネルギー定期報告書届出値)でした。事業活動におけるエネルギー消費の大半が工場での生産



活動にともなうものであり、生産高の変化によってエネルギー消費量も大きく左右される傾向にあります。生産設備の高効率化やLED照明の導入など、今後も省エネルギーへの取り組みを続けます。

また、製品においてもエンジンの排ガス基準に対応したモデルチェンジや、各セグメントで低騒音・低公害のための機能を備えた「環境配慮型製品」を導入。ラフテレーンクレーンCREVO G4シリーズでは、環境に配慮した「燃料消費モニター」や「エコ・モード」機能を搭載し、CO₂排出の削減や、燃料消費量の改善、低騒音作業など作業効率と環境に配慮した操作をサポートしています。



バージ船による製品輸送



太陽光パネルの設置(志度工場)

文化財修復支援

タダノらしい社会貢献の1つとして「文化財修復支援」が挙げられます。「クレーンがあれば、倒れたモアイ像を起こせるのに」という現地の呼びかけに応える形で1988~96年に「モアイ修復プロジェクト」へ取り組みました。また2008年には奈良県の「高松塚古墳石室解体」で専用治具の開発など技術支援を行い、2018年2月には「ものづくり日本大賞」の経済産業大臣特別賞を受賞しました。同じく2008年にはカンボジア・アンコール遺跡修復のために製品の寄贈も行いました。



アンコール遺跡修復のための製品寄贈



モアイ修復プロジェクト



高松塚古墳石室解体の技術支援

科学体験イベントへの協賛・出展

「子供たちの科学離れを防ごう!」を合い言葉に、地元の大学等が開催する科学体験イベントに出展しています。

「この原理」「パスカルの原理」「滑車の原理」を学べる実験器具や高所作業車の試乗、空気圧で動く「スケルトンクレーン」操作などを体験していただきました。



ハートフルポケット

さまざまな社会活動を行う団体・個人に対し寄付を行う社員参加型の草の根支援組織として2007年に発足しました。会員となった社員は毎月の給与から100円、賞与から500円を献金し、集まった資金に会社からも同額を合わせて(マッチングギフト)、毎年2回の寄付を行っています。2018年3月までに、のべ46の団体に寄付しました。



夏休み親子工場見学会の開催

普段は目にする機会がない工場を見学し、当社製品に試乗いただくことで、お子さまにもものづくりや技術への理解・興味を深めていただくとともに、夏休みの自由研究の一助になればと考え、毎年実施しています。

2017年度も8月に志度工場で開催し、社内外あわせて44組の親子に参加いただきました。

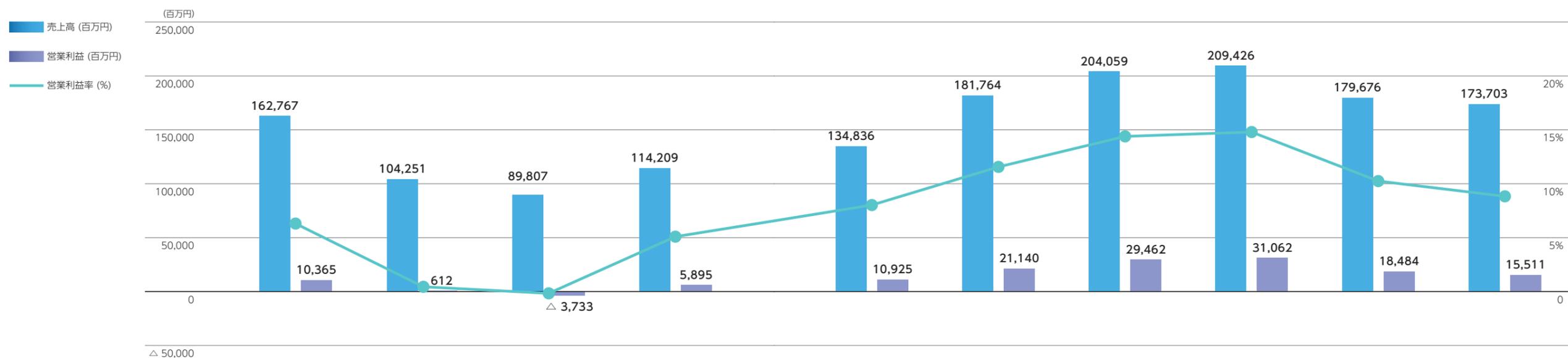


献血活動等への協力

日本赤十字社の献血サポーターに参加し、年2回、香川県内の各事業所で献血を実施し、毎年400名を超えるグループ社員が協力しています。なお2017年度の献血者数は462名で、香川県の献血全体のおよそ1%にあたるそうです。

また地元大学や専門学校の看護学生およそ100名を対象に、臨地研修の受け入れを毎年行なっています。





	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
損益状況										
売上高 (百万円)	162,767	104,251	89,807	114,209	134,836	181,764	204,059	209,426	179,676	173,703
営業利益 (百万円)	10,365	612	△ 3,733	5,895	10,925	21,140	29,462	31,062	18,484	15,511
経常利益 (百万円)	10,331	297	△ 3,886	5,778	11,448	21,642	30,357	30,680	18,490	14,907
親会社株主に帰属する当期純利益(損失) (百万円)	5,539	△ 895	△ 6,722	3,145	7,341	14,410	19,483	19,621	11,881	9,391
キャッシュ・フロー状況										
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△ 5,165	7,913	6,472	13,612	2,188	15,467	19,800	19,387	3,301	30,015
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△ 6,662	△ 1,700	△ 873	△ 868	△ 1,972	△ 3,753	△ 4,079	△ 3,758	△ 4,798	△ 3,942
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	12,081	3,216	△ 5,738	△ 2,540	△ 2,050	△ 4,910	△ 4,287	△ 3,136	△ 2,495	△ 7,992
財務状況										
総資産額 (百万円)	176,465	159,875	146,165	161,176	177,611	198,944	223,608	235,400	229,799	245,565
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	21,396	30,822	30,367	40,155	39,512	48,156	61,262	73,120	68,291	86,624
有利子負債 (百万円)	41,249	46,553	40,189	38,101	38,706	38,233	37,620	36,869	37,235	33,750
株主資本 (百万円)	90,076	87,516	80,357	83,094	88,757	100,454	116,796	133,190	141,746	147,841
1株当たり情報										
純資産額 (円)	677.4	660.4	590.6	612.1	677.3	805.9	958.2	1,060.0	1,121.9	1,180.3
親会社株主に帰属する当期純利益(損失) (円)	43.6	△ 7.0	△ 52.9	24.8	57.8	113.7	153.8	154.9	93.8	74.2
株価収益率 (%)	9.4	—	—	24.1	18.8	11.8	10.5	6.7	13.8	21.5
配当金 (円)	16.0	8.0	3.0	7.0	12.0	19.0	23.0	26.0	26.0	26.0
配当性向 (%)	36.7	—	—	28.3	20.7	16.7	15.0	16.8	27.7	35.1
その他指標										
営業利益率 (%)	6.4	0.6	—	5.2	8.1	11.6	14.4	14.8	10.3	8.9
ROA (総資産営業利益率) (%)	5.9	0.4	—	3.8	6.4	11.2	13.9	13.5	7.9	6.5
ROE (自己資本当期純利益率) (%)	6.4	—	—	4.1	9.0	15.3	17.5	15.4	8.6	6.4
自己資本比率 (%)	48.8	52.5	51.3	48.2	48.4	51.3	54.3	57.0	61.8	60.9
設備投資額 (百万円)	6,558	1,583	964	1,584	2,925	4,178	3,905	4,572	6,030	2,838
減価償却費 (百万円)	2,762	3,060	2,696	2,353	2,167	2,366	2,589	2,793	3,113	2,864
研究開発費 (百万円)	4,200	4,010	3,727	3,480	3,998	4,497	4,876	5,611	5,993	6,149
海外売上高比率 (%)	54.9	53.9	42.6	46.3	49.1	52.5	50.7	49.9	43.1	43.8
社員数 (名)	2,912	3,043	3,091	3,113	3,144	3,227	3,491	3,433	3,346	3,311

連結貸借対照表

(2017年および2018年3月31日現在)

資産の部	2016年度	2017年度
流動資産	177,965	191,609
現金及び預金	68,745	86,854
受取手形及び売掛金	47,149	41,996
電子記録債権	1,568	3,505
商品及び製品	25,764	23,232
仕掛品	20,263	21,682
原材料及び貯蔵品	8,850	9,637
繰延税金資産	3,452	2,922
その他	2,357	2,100
貸倒引当金	△186	△321
固定資産	51,834	53,955
有形固定資産	41,183	41,747
建物及び構築物	35,628	36,666
機械装置及び運搬具	11,571	12,042
土地	22,513	23,025
リース資産	1,004	1,032
建設仮勘定	979	1,262
その他	7,753	8,549
小計	79,450	82,579
減価償却累計額	△38,266	△40,831
無形固定資産	1,181	1,187
投資その他の資産	9,469	11,021
投資有価証券	6,190	7,209
繰延税金資産	2,620	3,230
その他	1,666	1,858
貸倒引当金	△1,008	△1,277
資産合計	229,799	245,565

(単位:百万円)

負債の部	2016年度	2017年度
流動負債	55,515	70,334
支払手形及び買掛金	26,080	28,310
電子記録債務	—	8,417
短期借入金	15,448	18,604
リース債務	216	215
未払法人税等	2,470	3,517
製品保証引当金	1,497	1,641
債務保証損失引当金	0	0
未払金	5,205	4,532
割賦利益繰延	152	159
その他	4,444	4,937
固定負債	31,734	25,186
社債	10,000	10,000
長期借入金	11,237	4,559
リース債務	333	372
繰延税金負債	147	155
再評価に係る繰延税金負債	2,109	2,109
退職給付に係る負債	7,299	7,360
その他	607	629
負債合計	87,250	95,521
純資産の部		
株主資本	141,746	147,841
資本金	13,021	13,021
資本剰余金	16,855	16,853
利益剰余金	114,507	120,606
自己株式	△2,637	△2,639
その他の包括利益累計額	318	1,615
その他有価証券評価差額金	1,732	1,622
土地再評価差額金	1,270	1,270
為替換算調整勘定	△1,875	△585
退職給付に係る調整累計額	△809	△693
非支配株主持分	484	587
純資産合計	142,549	150,044
負債純資産合計	229,799	245,565

連結損益計算書

(2017年および2018年3月31日終了の事業年度)

	2016年度	2017年度
売上高	179,676	173,703
売上原価	129,682	126,366
割賦販売利益繰延前売上総利益	49,993	47,337
割賦販売未実現利益戻入額	207	110
割賦販売未実現利益繰入額	152	117
売上総利益	50,048	47,330
販売費及び一般管理費	31,564	31,818
営業利益	18,484	15,511
営業外収益	758	497
受取利息	140	84
割賦販売受取利息	0	—
受取配当金	142	134
その他	475	278
営業外費用	752	1,102
支払利息	436	452
為替差損	152	439
その他	163	209
経常利益	18,490	14,907
特別利益	150	36
固定資産売却益	35	6
投資有価証券売却益	105	0
関係会社清算益	—	30
関係会社出資金譲渡益	4	—
段階取得に係る差益	5	—
特別損失	1,298	268
固定資産除売却損	124	41
減損損失	199	—
関係会社出資金評価損	973	87
関係会社貸倒引当金繰入額	—	139
税金等調整前当期純利益	17,342	14,676
法人税、住民税及び事業税	5,034	5,246
法人税等調整額	366	△3
法人税等合計	5,401	5,243
当期純利益	11,940	9,432
非支配株主に帰属する当期純利益	58	41
親会社株主に帰属する当期純利益	11,881	9,391

(単位:百万円)

連結包括利益計算書

(2017年および2018年3月31日終了の事業年度)

	2016年度	2017年度
当期純利益	11,940	9,432
その他の包括利益	△785	1,325
その他有価証券評価差額金	882	△109
為替換算調整勘定	△1,799	1,319
退職給付に係る調整額	132	116
包括利益	11,155	10,758
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	11,133	10,688
非支配株主に係る包括利益	22	70

(単位:百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書

(2017年および2018年3月31日終了の事業年度)

	2016年度	2017年度
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	17,342	14,676
減価償却費	3,113	2,864
減損損失	199	—
のれん償却額	56	97
貸倒引当金の増減額(△は減少)	239	334
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	227	119
割賦利益繰延の増減額(△は減少)	△54	6
受取利息及び受取配当金	△283	△219
割賦販売受取利息	△0	—
支払利息	436	452
為替差益(△は益)	269	△70
投資有価証券売却損益(△は益)	△105	△0
固定資産除売却損益(△は益)	89	34
関係会社出資金評価損	973	87
売上債権の増減額(△は増加)	1,431	3,765
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,767	1,872
仕入債務の増減額(△は減少)	△8,623	10,181
その他	△151	324
小計	11,393	34,526
利息及び配当金の受取額	283	220
割賦販売受取利息の受取額	0	—
利息の支払額	△432	△452
法人税等の支払額	△7,943	△4,278
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,301	30,015
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	60	213
有形固定資産の取得による支出	△5,147	△2,628
有形固定資産の売却による収入	31	9
投資有価証券の取得による支出	—	△1,216
投資有価証券の売却による収入	574	9
事業譲受による支出	△353	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△5	△266
連結の範囲の変更を伴う子会社出資金の譲渡による支出	△77	—
その他	118	△64
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,798	△3,942
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	645	△4,473
長期借入れによる収入	1,203	—
長期借入金の返済による支出	△746	—
自己株式の取得による支出	△0	△2
自己株式の処分による収入	10	—
配当金の支払額	△3,292	△3,292
非支配株主からの払込みによる収入	—	78
非支配株主への配当金の支払額	△49	△44
その他	△264	△258
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,495	△7,992
現金及び現金同等物に係る換算差額	△836	251
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,828	18,332
現金及び現金同等物の期首残高	73,120	68,291
現金及び現金同等物の期末残高	68,291	86,624

Manitex International Inc.社への出資

Manitex社は北米で一般建設やエネルギー関連設備の設置に使われるブームトラックの生産・販売に強みがあり、また、グループ会社においては、米州や欧州で車両搭載型クレーンの主流となっている折り曲げブーム式クレーンをラインアップしています。「LE世界No.1」を目指す当社グループにとって、ラインナップにない製品を保有する同社に出資することで、より幅広いお客様のニーズにお応えすることが可能になると判断し、第三者割当増資による新株式を32.6百万ドル(1株あたり取得価額:11.19ドル)で取得しました。

なお、この出資によりManitex社の14.9%の株式を当社が保有することになり、6月の取締役会にて、当社が指名する候補者1名が新規に取締役に任命されました。



ブームトラック



折り曲げブーム式クレーン

日本向けラフテレーンクレーン「CREVO mini G4」発売

当社グループのコアバリュー「安全・品質・効率」を具現化すべく、研究開発を進めてきた各種新機能をラフテレーンクレーンに集約し、時代を切り開く「Generation 4(G4)」として結実させました。

最小クラスのラフテレーンクレーンでありながら、従来の2ウインチから、16tクラスに搭載のパワフルな1ウインチに集約し、フック1本掛け時の定格総荷重が3.2tという、クラス最大性能を実現しました。さらに最大作業半径は、ブーム:22.5m、ジブ:25.9mと拡大し、共にクラス最大を誇ります。



CREVO mini G4(GR-130NL/N)

オランダ・ベルギーにおける販売サービス会社の設立

当社のグループ会社であるタダノ・ファウン GmbH(ドイツ)は、オランダ・ベルギーにおける販売サービスの強化を目的に、同社の販売サービス代理店2社を2018年1月に買収し、タダノ・ネーデルランド B.V.(オランダ)、タダノ・ベルギー B.V.B.A(ベルギー)として営業を開始しました。

当社グループは長期目標として「LE世界No.1」を掲げており、海外事業の拡充・シェアアップに取り組んでいます。本買収によりヨーロッパでの更なる拡販・シェアアップを目指します。



タダノ・ネーデルランド B.V.(オランダ)

インドにクレーン製造・販売の合併会社を設立

成長が著しいインド市場で、さらなる事業の拡大と当社グループの成長を図るべく、農業機械や建設機械を製造する現地の有力メーカーであるEscorts Ltd.(エスコーツ社)との間で2018年8月、合併会社の設立に合意しました。資本金は6億インドルピー(出資比率:タダノ51%、Escorts社49%)で、当社製クレーンの販売拡大のみならず、現地での設計・ものづくりによる競争力強化を目指します。



Escorts社の製品(ラフテレーンクレーン)

会社概要・株式の状況

概要

(2018年3月31日現在)

商号	株式会社タダノ TADANO LTD.
資本金	13,021,568,461円(発行済株式の総数 129,500,355株)
設立	1948年8月24日
従業員数	単独1,428名 連結3,311名
事業内容	建設用クレーン、車両搭載型クレーン及び高所作業車等の製造販売
本社	香川県高松市新田町甲34番地
工場	高松工場(高松市)、志度工場(さぬき市)、 多度津工場(香川県多度津町)、千葉工場(千葉市)
研究所・試験場	技術研究所(高松市)、三本松試験場(東かがわ市)
支店・営業所	10支店・23営業所
海外事務所	北京事務所、中東事務所、モスクワ事務所

グループ会社

〔国内〕	〔海外〕
株式会社タダノアイメス	タダノ・ファウン GmbH [ドイツ]
株式会社タダノアイレック	タダノ・ファウン・シュタルパウ GmbH [ドイツ]
株式会社タダノエステック	タダノ・ユーケー Ltd [イギリス]
株式会社タダノエンジニアリング	タダノ・フランス SAS [フランス]
株式会社タダノテクノ東日本	タダノ・ネーデルランド B.V. [オランダ] ^(※1)
株式会社タダノテクノ西日本	タダノ・ベルギー B.V.B.A. [ベルギー] ^(※1)
株式会社タダノ教習センター	タダノ・アメリカ Corp. [アメリカ]
株式会社タダノ物流	タダノ・マンティス Corp. [アメリカ]
株式会社タダノシステムズ	タダノ・アメリカ・ホールディングス Inc. [アメリカ]
株式会社タダノビジネスサポート	タダノ・チリ SpA [チリ]
株式会社戸田機工商会	タダノ・ブラジル・エキパメント・ステ・エレヴァサオン Ltda. [ブラジル]
	多田野(北京)科貿有限公司 [中国]
	韓国多田野株式会社 [韓国]
	タダノ・アジア Pte. Ltd. [シンガポール]
	タダノ・タイランド Co., Ltd. [タイ]
	タダノ・イタルタイ Co., Ltd. [タイ]
	タダノ・インド Pte. Ltd. [インド]
	タダノ・オセアニア Pty Ltd [オーストラリア]
	北起多田野(北京)起重機有限公司 [中国] ^(※2)
	台湾多田野股份有限公司 [台湾] ^(※2)

(※1) いずれも2018年1月に買収し、2018年度より連結対象です。
(※2) いずれも関連会社であり、他は全て子会社です。

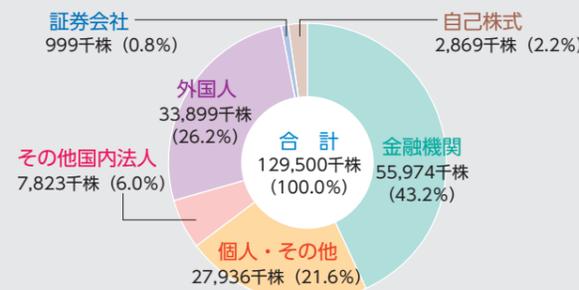
株式の状況

(2018年3月31日現在)

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	129,500,355株
株主数	7,559名

注) 発行済株式の総数には、自己株式2,869,520株を含んでおります。

所有者別株式分布状況



大株主一覧

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	15,692	12.3
日本生命保険相互会社	6,301	4.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	5,290	4.1
株式会社みずほ銀行	5,246	4.1
株式会社百十四銀行	5,171	4.0
明治安田生命保険相互会社	4,056	3.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,367	2.6
第一生命保険株式会社	3,213	2.5
タダノ取引先持株会	2,809	2.2
株式会社伊予銀行	1,572	1.2

注) 1. 当社は自己株式を2,869,520株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
3. 信託銀行各社の所有株式数は、すべて当該各社の信託業務に係る株式であります。
4. 明治安田生命保険相互会社の所有株式数には、特別勘定口に係る株式数を含んでおります。
5. 第一生命保険株式会社の所有株式数には、特別勘定口に係る株式数を含んでおります。
6. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日付で株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しております。

取締役



(後列左より)吉田 康之、西 陽一郎、奥山 環、伊藤 伸彦
(前列左より)鈴木 正、多田野 宏一

監査役



(左より)三宅 雄一郎、北村 明彦、児玉 義人、井之川 和司

1919

多田野益雄 創業



'48 (株)多田野鉄工所を設立、
初代社長 多田野益雄
資本金50万円

'50

鉄道保線機械を発明、
日本国有鉄道へ納入

'54 油圧式産業機械の開発着手

'55 日本初の油圧式トラッククレーン
1号機(OC-2型)完成



'59 本社工場を現在地の
香川県高松市新田町に新設移転

'60

油圧式トラッククレーンをインドネシアへ初輸出

'63 高松市新田町に本社社屋完成
カーゴクレーン(TM-2H)を発売
[車両搭載型クレーン]

'64 トラッククレーン(TS-80)を発売[汎用車架装]

'66 トラッククレーン(TL-125)を発売[専用キャリア架装]

'70

国内初のラフテレーンクレーン(TR-150)を発売

'72 日本初の過負荷防止装置(AML)を開発
東京・大阪両証券取引所各市場第1部に指定替上場

'73 初の海外子会社としてTadano International
(Europe) B.V.をオランダに設立

'80

香川県さぬき市志度に志度工場新設

'83 当社初の高所(活線)作業車
(AT-136TE、AT-140TE)を発売

'84 北京事務所を中国に設立

'89 株式会社 タダノに社名変更

'90

ドイツFAUN GmbH
<現 Tadano Faun GmbH>を
買収

'91 イースター島アフ・トンガリキの
モアイ修復プロジェクト着手



'92 オールテレーンクレーン
(AR-1000M)を発売[ARシリーズ]

'93 Tadano America Corporationを
アメリカ・テキサス州に設立

'96 Tadano- Multico (S.E.ASIA) Pte Ltd.
<現Tadano Asia Pte. Ltd.>を
シンガポールに設立

'98 国内最大550t吊り
オールテレーンクレーン
(AR-5500M)を発売
「ファジー制御を用いた高性能高所作業車の開発」が
機械振興協会賞受賞



2000

'03 中国初の建設用クレーンの合弁会社
北起多田野(北京)起重機有限公司を設立
中東事務所をUAEに設立

'07 香川県多度津町に多度津工場新設

'08 千葉市に千葉工場を新設
Tadano Faun Stahlbau GmbHをドイツに設立
米国SpanDeck Inc.
<現 Tadano Mantis Corporation>を買収

'10

Tadano Oceania Pty Ltdを
オーストラリアに設立

'11 Tadano Brasil Equipamentos de
Elevação Ltda.をブラジルに設立

'12 多田野(北京)科貿有限公司を中国に設立
Tadano India Pvt. Ltd.をインドに設立
新興国向けカーゴクレーンの生産拠点として、
Tadano (Thailand) Co.,Ltd. をタイに設立

'13 世界最大級の吊り上げ能力を
誇るラフテレーンクレーン
(GR-1600XL、GR-1450EX)を
発売



'14 イギリスの Cranes UK Ltd.
<現Tadano UK Ltd>を買収

'15 グループ連結売上が初めて2,000億円を突破
(2014年度・2015年度決算)

'16 Tadano France SASをフランスに設立

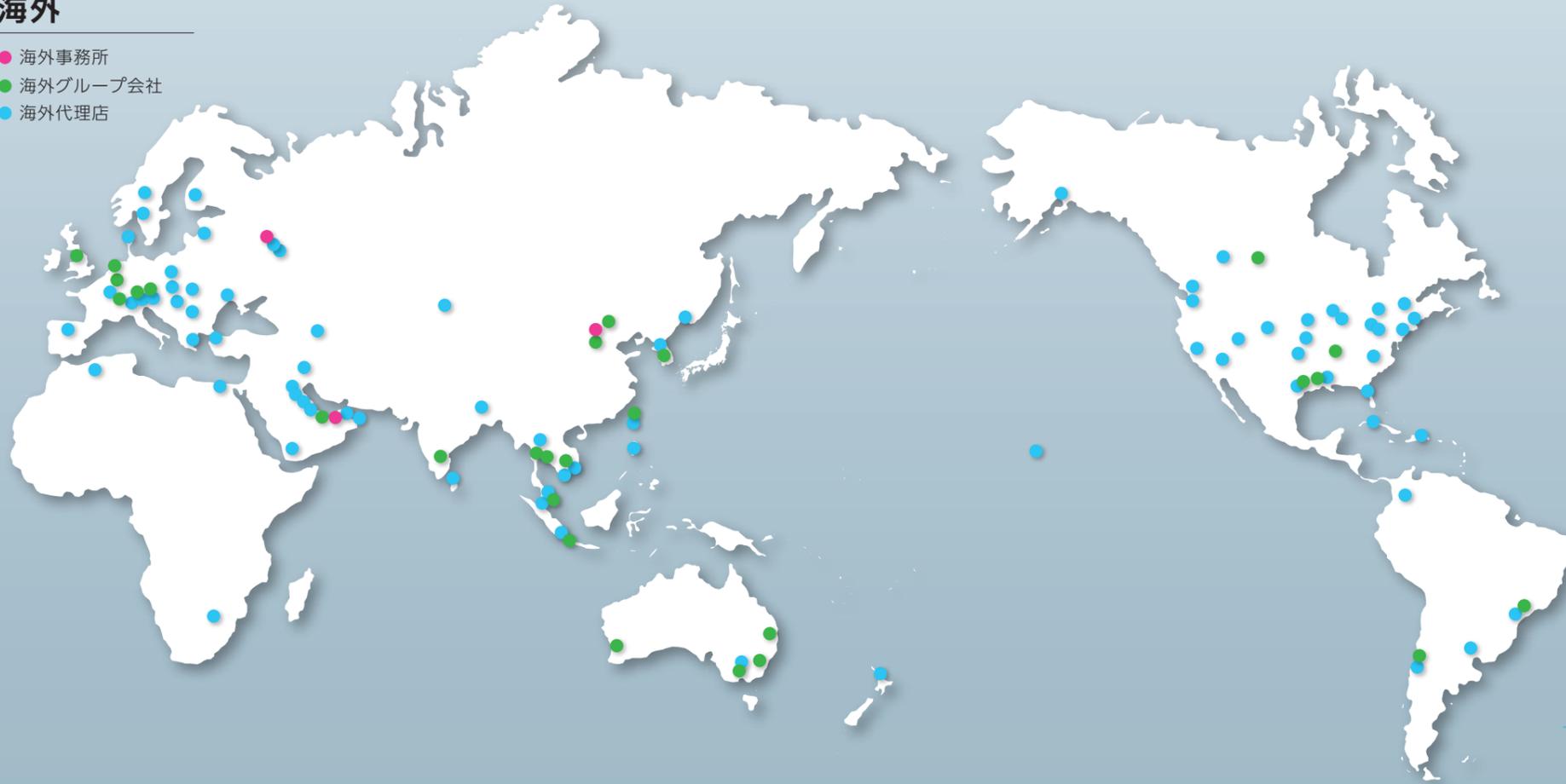
'17 タダノグループ中期経営計画(17-19)発表
Tadano Italthai Co., Ltd.をタイに設立

'18 Tadano Nederland B.V.をオランダに設立
Tadano Belgium B.V.B.A.をベルギーに設立
Tadano Chile SpAをチリに設立
モスクワ事務所をロシアに開設

Lifting your dreams

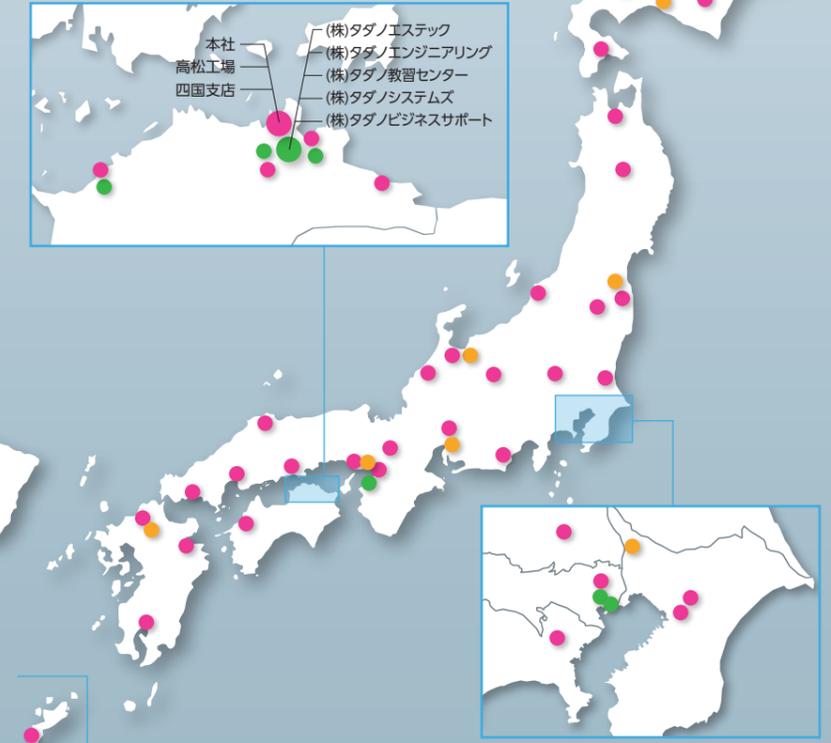
海外

- 海外事務所
- 海外グループ会社
- 海外代理店



日本

- 国内事業所、支店・営業所
- 国内グループ会社
- 部品センター



海外事務所

- 北京事務所
- 中東事務所
- モスクワ事務所

海外グループ会社

欧州

- Tadano Faun GmbH (ドイツ)
- Tadano Faun Stahlbau GmbH (ドイツ)
- Tadano UK Ltd (イギリス)
- Tadano France SAS (フランス)
- Tadano Belgium B.V.B.A. (ベルギー)
- Tadano Nederland B.V. (オランダ)

米州

- Tadano America Corporation (アメリカ)
- Tadano Mantis Corporation (アメリカ)
- Tadano America Holdings, Inc. (アメリカ)
- Tadano Chile SpA (チリ)
- Tadano Brasil Equipamentos de Elevação Ltda. (ブラジル)

アジア

- Tadano (Beijing) Ltd. (中国)
- BQ-Tadano (Beijing) Crane Co., Ltd. (中国)
- Tadano Korea Co., Ltd. (韓国)
- Taiwan Tadano Ltd. (台湾)
- Tadano Asia Pte. Ltd. (シンガポール)
- Tadano (Thailand) Co., Ltd. (タイ)
- Tadano Italthai Co., Ltd. (タイ)
- Tadano India Pvt. Ltd. (インド)

オセアニア

- Tadano Oceania Pty Ltd (オーストラリア)

日本事業所

- 本社
- 東京事務所
- 高松工場
- 志度工場
- 多度津工場
- 千葉工場
- 技術研究所
- 三本松試験場

支店・営業所

- 北海道支店
 - 旭川営業所
 - 帯広営業所
 - 函館営業所
- 東北支店
 - 青森営業所
 - 北東北営業所
 - 郡山営業所
- 北陸支店
 - 新潟営業所
 - 金沢営業所
- 関東支店
 - 水戸営業所
 - 群馬営業所
- 東京支店
 - 千葉営業所
 - 横浜営業所
- 中部支店
 - 静岡営業所
 - 松本営業所
- 関西支店
 - 京都営業所
 - 神戸営業所
- 四国支店
 - 松山営業所
- 中国支店
 - 岡山営業所
 - 松江営業所
 - 徳山営業所
- 九州支店
 - 大分営業所
 - 南九州営業所
 - 沖縄営業所

日本グループ会社

- (株)タダノアイメス
- (株)タダノアイレック
- (株)タダノエステック
- (株)タダノエンジニアリング
- (株)タダノテクノ東日本
- (株)タダノテクノ西日本
- (株)タダノ教習センター
- (株)タダノ物流
- (株)タダノシステムズ
- (株)タダノビジネスサポート
- (株)戸田機工商会

部品センター

- グローバルパーツセンター(神戸市)
- 北海道部品センター
- 東北部品センター
- 北陸部品センター
- 首都圏部品センター
- 中部部品センター
- 九州部品センター

日本グループ会社

販 売	連結子会社		
	(株)タダノアイメス	〒130-0014 東京都墨田区亀沢2丁目4番12号	☎(03)3621-7741
製 造	連結子会社		
	(株)タダノアイレック	〒764-0017 香川県仲多度郡多度津町西港町14番地の1	☎(0877)32-2161
	(株)タダノエステック	〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地	☎(087)839-5785
	(株)タダノエンジニアリング	〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地	☎(087)839-5675
サービス	連結子会社		
	(株)タダノテクノ東日本	〒136-0082 東京都江東区新木場2丁目8番10号	☎(03)5569-2881
	(株)タダノテクノ西日本	〒592-8352 大阪府堺市西区築港浜寺西町8番24号	☎(072)268-3434
そ の 他	連結子会社		
	(株)タダノ教習センター	〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地	☎(087)839-5513
	(株)タダノ物流	〒769-2101 香川県さぬき市志度5405番地3	☎(087)894-9530
	(株)タダノシステムズ	〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地	☎(087)839-5545
	(株)タダノビジネスサポート	〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地	☎(087)839-5788
	(株)戸田機工商会	〒760-0080 香川県高松市木太町1858番地1	☎(087)834-3434

海外グループ会社

欧 州	連結子会社		
	Tadano Faun GmbH	Faunberg 2, 91207, Lauf a.d. Pegnitz, Germany	☎+49-9123-185-0
	Tadano Faun Stahlbau GmbH	Faunberg 2, 91207, Lauf a.d. Pegnitz, Germany	☎+49-9123-185-171
	Tadano UK Ltd	1-4 Wentworth Way, Wentworth Industrial Park, Tankersley, South Yorkshire, S75 3DH, U.K.	☎+44-870-066-5466
	Tadano France SAS	42 Avenue Longchamp, 57500 Saint Avold, France	☎+33-6-7571-2277
	Tadano Nederland B.V.	Component 1, 1446 WZ Purmerend, The Netherlands	☎+31-299-39-00-55
米 州	連結子会社		
	Tadano America Corporation	4242 West Greens Road, Houston, Texas 77066, U.S.A.	☎+1-281-869-0030
	Tadano Mantis Corporation	1705 Columbia Avenue, Franklin, Tennessee 37064, U.S.A.	☎+1-800-272-3325
	Tadano America Holdings, Inc.	4242 West Greens Road, Houston, Texas 77066, U.S.A.	☎+1-281-869-0030
	Tadano Chile SpA	San Pio X 2460, Oficina 1110, Providencia, Santiago, Chile	☎+56-2-3280-2077
ア ジ ア ・ オセアニア	連結子会社		
	Tadano (Beijing) Ltd.	Room 1902, No.302 Huateng Mansion, Jinsong 3 District Chaoyang, Beijing, China	☎+86-10-8776-9766
	Tadano Korea Co., Ltd.	2F, B213, 52, Chungmin-ro, Songpa-gu, Seoul, 05839, Korea	☎+82-2-714-1600
	Tadano Asia Pte. Ltd.	11 Tuas View Crescent, Multico Building, Singapore 637643	☎+65-6863-6901
	Tadano (Thailand) Co., Ltd.	500/70 Moo.2, T.Tasit, A.Pluaek Daeng, Rayong 21140, Thailand	☎+66-33-010-939
	Tadano Italthai Co., Ltd.	2013 New Petchaburi Road, Bangkapi, Huay Kwang, Bangkok 10310, Thailand	☎+66-2-318-5192
	Tadano India Pvt. Ltd.	Unit No.709-710, 7th Floor, Prestige Meridian -1, No.29 M.G Road, Bangalore-560001, Karnataka, India	☎+91-80-4093-1566
	Tadano Oceania Pty Ltd	4/12 Archimedes Street, Darra, QLD 4076, Australia	☎+61-7-3120-8750
	関連会社		
	BQ-Tadano (Beijing) Crane Co., Ltd.	No.36 Linhe Street, Linhe Industrial Development Zone, Shunyi District, Beijing, China	☎+86-10-8949-8703
Taiwan Tadano Ltd.	4., No.77, Sec. 2, Dunhua S. Rd., Da'an Dist., Taipei City 10682, Taiwan (R.O.C.)	☎+886-2-2754-0252	

日本事業所

本 社	〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地	☎(087)839-5555
東 京 事 務 所	〒130-0014 東京都墨田区亀沢2丁目4番12号	☎(03)3621-7777
高 松 工 場	〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地	☎(087)839-5555
志 度 工 場	〒769-2101 香川県さぬき市志度5405番地3	☎(087)894-3111
多 度 津 工 場	〒764-0017 香川県仲多度郡多度津町西港町14番地の1	☎(0877)32-2161
千 葉 工 場	〒265-0045 千葉県千葉市若葉区上泉町424番地13 (ちばリサーチパーク内)	☎(043)239-1700
技 術 研 究 所	〒761-0301 香川県高松市林町2217番地13	☎(087)869-2000
三 本 松 試 験 場	〒769-2601 香川県東かがわ市三本松2277番地	☎(0879)25-7481

北 海 道 支 店	〒003-0026 北海道札幌市白石区本通21丁目南1番40号	☎(011)861-9030
旭 川 営 業 所	〒070-0034 北海道旭川市4条通8丁目1703番地59 (旭川四条ビル4階)	☎(0166)25-2817
帯 広 営 業 所	〒080-0010 北海道帯広市大通南12丁目20番地 (あおば十勝ビル3階)	☎(0155)28-6200
函 館 営 業 所	〒041-0806 北海道函館市美原3丁目16番25号 (日本ハウスホールディングスビル6階)	☎(0138)47-5122
東 北 支 店	〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東4丁目2番21号	☎(022)288-5550
青 森 営 業 所	〒030-0861 青森県青森市長島2丁目10番4号 (ヤマウビル)	☎(017)777-4231
北 東 北 営 業 所	〒020-0864 岩手県盛岡市西仙北1丁目35番46号	☎(019)635-0611
郡 山 営 業 所	〒963-8025 福島県郡山市桑野2丁目2番16号 (藤尾ビル3階)	☎(024)932-3513
北 陸 支 店	〒930-0177 富山県富山市西二俣344番地	☎(076)436-1555
新 潟 営 業 所	〒950-1125 新潟県新潟市西区流通3丁目1番5	☎(025)268-0770
金 沢 営 業 所	〒921-8011 石川県金沢市入江2丁目54番地 (中村ビル2階)	☎(076)292-2326

関 東 支 店	〒362-0046 埼玉県上尾市大字寺丁目464番5	☎(048)780-7711
水 戸 営 業 所	〒310-0853 茨城県水戸市平須町158番地268	☎(029)244-3051
群 馬 営 業 所	〒379-2154 群馬県前橋市天川大島町3丁目52番4号	☎(027)261-7211
東 京 支 店	〒130-0014 東京都墨田区亀沢2丁目4番12号	☎(03)3621-7790
千 葉 営 業 所	〒285-0802 千葉県佐倉市大作1丁目8番4号 (佐倉第三工業団地内)	☎(043)498-3520
横 浜 営 業 所	〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4843番地1	☎(045)936-2811
中 部 支 店	〒491-0824 愛知県一宮市丹陽町九日市場字下田122	☎(0586)76-1181
静 岡 営 業 所	〒422-8008 静岡県静岡市駿河区栗原6番25号 (静鉄栗原ビル3階)	☎(054)261-1161
松 本 営 業 所	〒390-0852 長野県松本市大字島立399-1 (滴水ビル703号)	☎(0263)40-0360

関 西 支 店	〒590-0906 大阪府堺市堺区三宝町7丁目352番地2	☎(072)221-2727
京 都 営 業 所	〒601-8328 京都府京都市南区吉祥院九条町23番地1 (NKDビル3階)	☎(075)681-0421
神 戸 営 業 所	〒673-0898 兵庫県明石市樽屋町8番34号 (甲南アセット明石第二ビル503号)	☎(078)918-3111
四 国 支 店	〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地	☎(087)839-5777
松 山 営 業 所	〒791-1113 愛媛県松山市森松町886番地4	☎(089)956-8800
中 国 支 店	〒731-4311 広島県安芸郡坂町北新地1丁目4番96号	☎(082)884-0255
岡 山 営 業 所	〒700-0941 岡山県岡山市北区青江1丁目7番33号 (青江土地倉庫ビル3階)	☎(086)223-9258
松 江 営 業 所	〒690-0061 島根県松江市白濁本町13番4号 (三井生命松江ビル5階)	☎(0852)20-7393
徳 山 営 業 所	〒745-0007 山口県周南市岐南町8番31号 (福谷ビル2階)	☎(0834)31-1715
九 州 支 店	〒816-0912 福岡県大野城市御笠川3丁目2番14号	☎(092)503-7821
大 分 営 業 所	〒870-0913 大分県大分市松原町3丁目1番11号 (大分鐵鋼ビル5階)	☎(097)551-8567
南 九 州 営 業 所	〒899-5231 鹿児島県始良市加治木町反土1442番地8 (インターフロントビル1階)	☎(0995)63-9720
沖 縄 営 業 所	〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客2丁目18番5号 (GKビル101号)	☎(098)877-7077

海外事務所

北 京 事 務 所	Room 1902A, No.302 Huateng Mansion, Jinsong 3 District Chaoyang, Beijing, China	☎+86-10-8776-9766
中 東 事 務 所	PO Box 18302, LOB 15-323, Jebel Ali Free Zone, Dubai, UAE	☎+971-4-8871353
モ ス コ ヴ 事 務 所	Russia, 125047, Moscow, 4th Lesnoy pereulok 4, Office 503	☎+7-495-225-8508